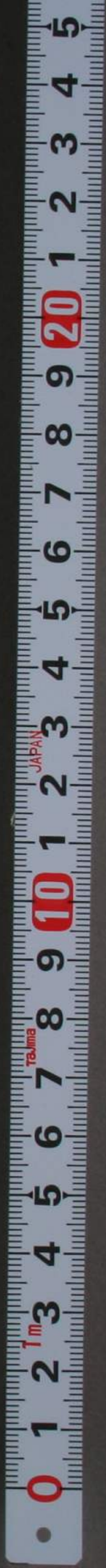


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Black



日本竹譜
下

和装本
二 14
504
3



門 14
號 504
卷 3

日本竹譜卷之下



疎節竹

疎節竹ハ其節間相去ル極メテ長ク、筑後柳川ニ
アリ、又東海道大磯驛鳴立澤ニ西行法師ノ遺物
ナリトテ竹杖長サ四尺太サ一握許ニシテ其兩
端ニ節アリト桂園竹譜ニ見ヘタリ、又農政全書

片山直人著

小野職愨校

中嶋仰山畫

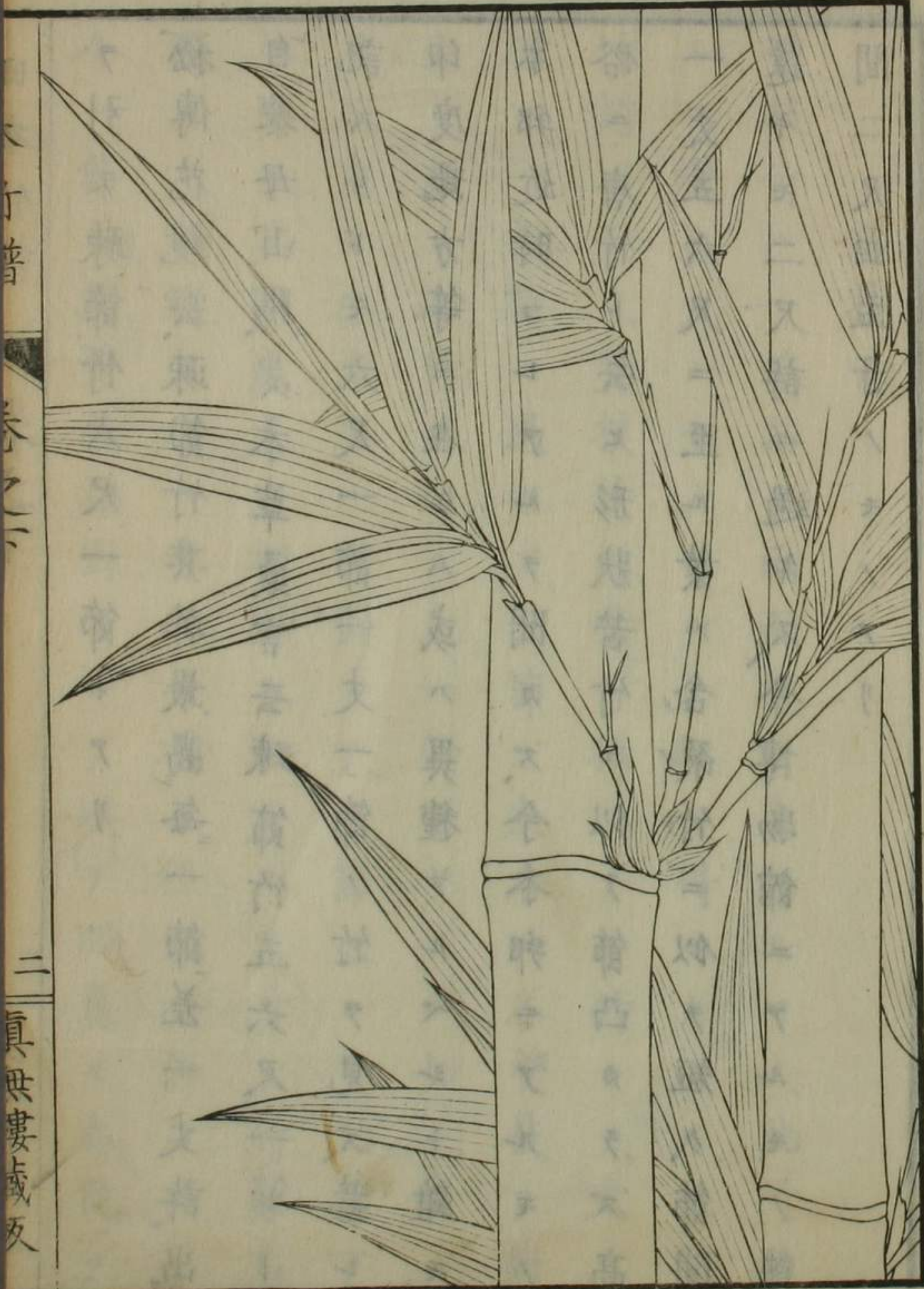


日本竹譜

卷之下

一

真共婁歲反

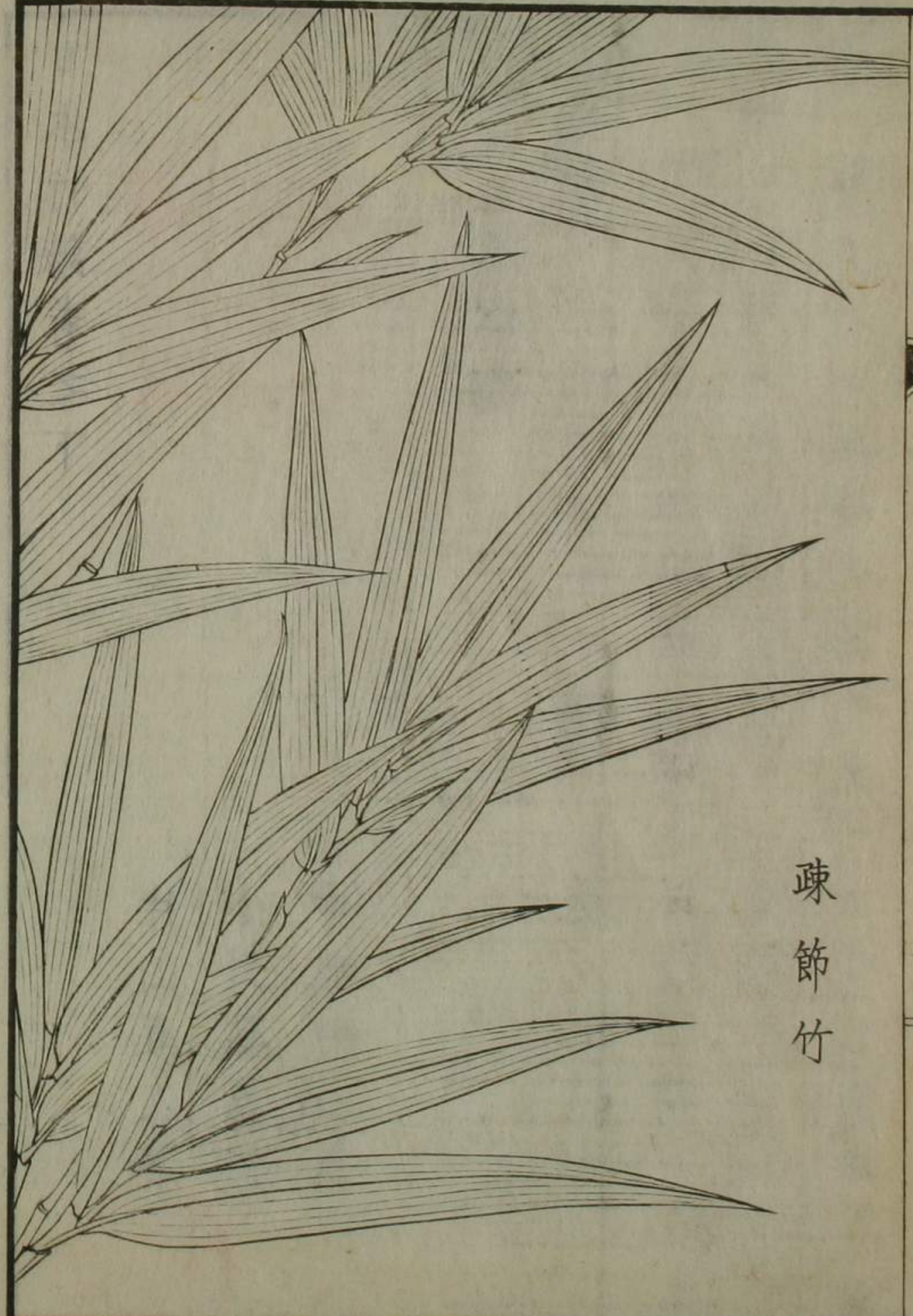


竹譜

卷之二

二

貞世婁歲及



竹譜

卷之二

貞世婁歲及

疎節竹

ヲ引テ疎節竹六尺一節トアリ
 秘傳花鏡云、疎節竹其幹最高、每一節差一丈許、出
 自黎母山陽、又本草彙言云、疎節竹五六尺一節ト
 記スレドモ六尺一節一丈一節ノ竹ヲ見ズ、蓋シ
 印度地方等ニ在テハ或ハ異種アルベシト雖モ、
 本邦近時コレアルヲ聞カズ、今本邦ニアルモノ
 俗ニ唐竹ト云ヒ形狀苦竹ニ似テ節凸カラズ高
 一丈五六尺ニ至ル葉ハ含朶竹ニ似テ短ク、節間
 遠キモ二尺許ニ過キス、今博物館ニアルモノ節
 間二尺四五寸ノモノアリ

雙枝竹

雙枝竹ハ一節毎ニ兩面枝ヲ生ズルモノ、此竹稀
 レニ變生スルモノニシテ輒ク得ベカラズ、桂園
 竹譜ニ云フ、雙枝竹ハ世ニ稀レナル竹ニテ、太サ
 僅ニ一握許ニ過ギズ、一節ノ左右ニ各雙枝ヲ對
 生シ頗ルニ竹ヲ合セテ一幹トセシガ如シ、故ニ
 其凹處モ亦左右ニ相對シテ、下節上ヨリ上節下
 ニ至ル、其凹處左右相對スルニヨリ自ラ竹身扁
 圓ニシテ縱ノ徑一寸七分、横ノ徑九分許ニシテ
 今一節ハ其雙枝相對スルヲ以テ凹處モ亦從テ

前後ニ相對スレバ、其竹身ノ扁圓ナル狀、又前後相反セリ、其節隆起シテヤ、苦竹ノ趣アリト雖モ、其全形ヲ熟視スル時ハ蓋シ淡竹ノ變生ナリ云々、又云、先年深井ノ花戸ニアリシ生竹ハ高一丈六尺、地上十二三節ヲ經テ、以上每節左右前後互ニ雙枝ヲ生ズル事、前種ト一様ニシテ其梢上ニ至テハ常竹ト同ジ、是モ亦淡竹ノ變生ニシテ、其近傍ノ竹林中ヨリ移植シタルモノナリ云々、今博物館ニ天親竹ニシテ雙枝竹ナルモノアリ、甚奇ナリ、其竹扁圓ニシテ初ノ節間左右ニ兩溝

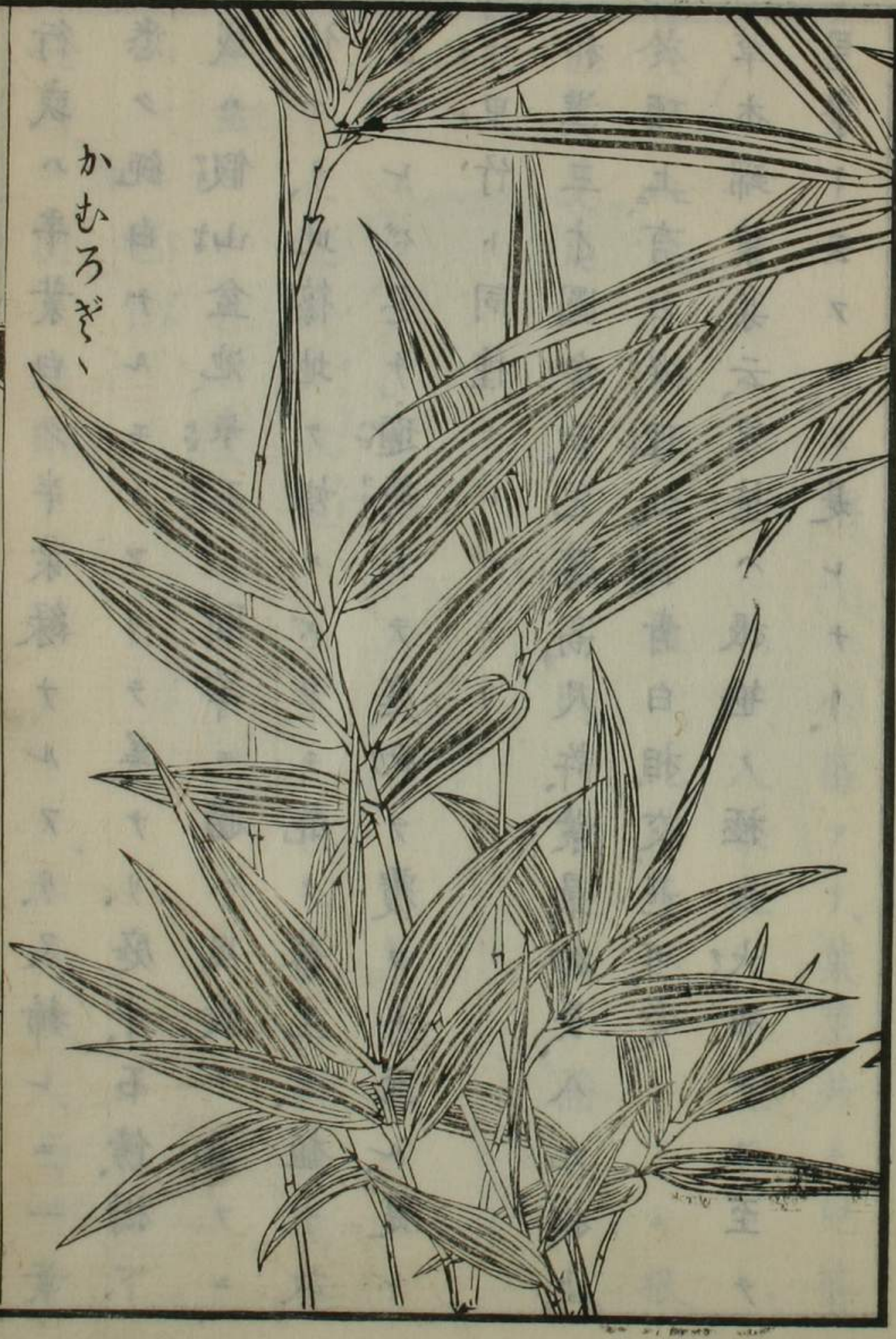
アリ、次節ニ至テ左右相對シテ枝ヲ生ジ、其次節枝ナク、又其次節ニ至リ、左右枝ヲ生シ、梢ニ至リテ全ク峻レテ二竿トナリ、左右相互ニ枝ヲ生ジ、二竿相均ク生ズルノ狀、初節二節三節ノ順ヲ逐フモノ、如シ、此竹ハ淡竹ノ一種變生ニテ最モ奇狀ヲ呈スルモノナリ、
兒篠 附オロシマ、カムロザシ
 兒篠ハ俗ニ縞篠、又柳葉篠ト云フ、高廿尺ニ盈タス、其葉細長、或ハ六七枚、或ハ八九枚、頂上ニ生ジ、葉ニ白キ縦線アリ、其白線或ハ一二行、或ハ三四

兒篠



おろまぢく

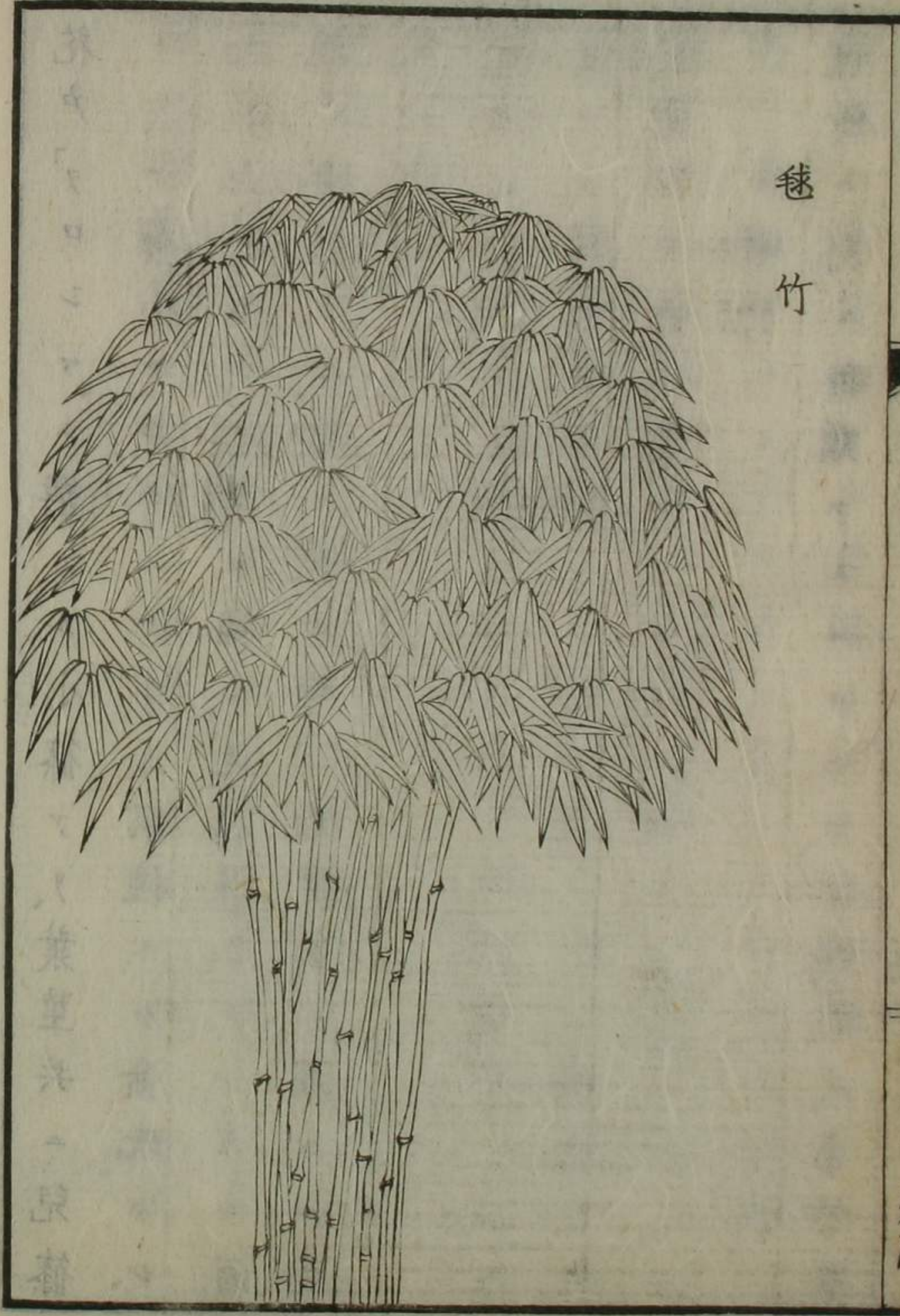
かむろぎ



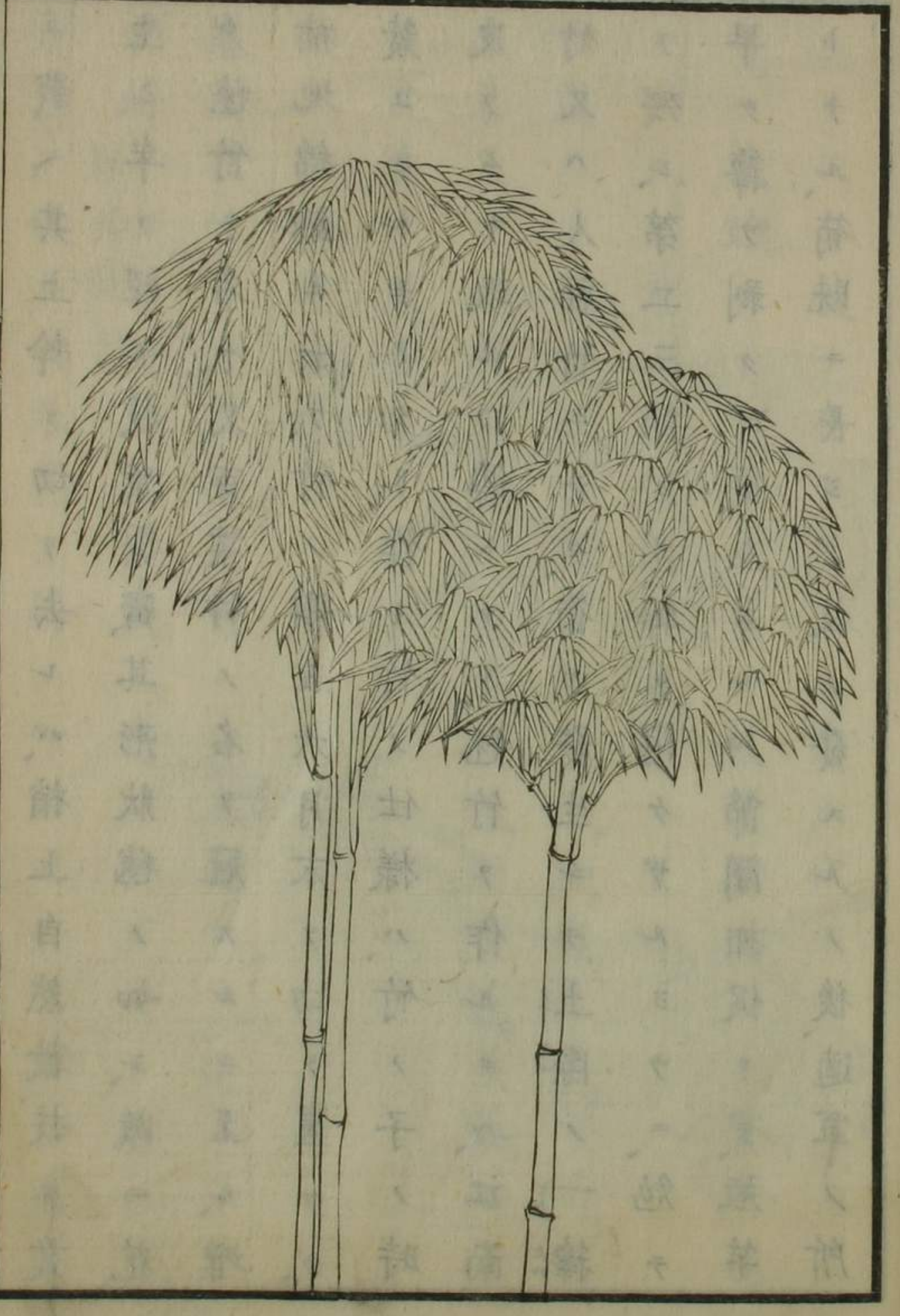
行或ハ半葉白ク半葉緑ナルアリ、又稀レニ一葉
 悉ク純白ナルモノアリテ美ナリ、庭中、石傍、樹下、
 或ハ假山盆池、歩石ノ間等ニ植ヘ風致ヲ添フニ
 佳ナリ、此篠、地ヲ嫌ハズシテ能ク蕃生ス、植テ放
 置スレバ忽チ邇蔓シテ庭砌ヲ覆フニ至ル、是レ
 千里竹ト同種ナレバナリ
 和漢三才圖會云、兒篠高尺許、葉最細長、八九枚生
 於頂上、有白縦理如絲、青白相交甚可愛、
 草木錦葉集云、兒笹ハ根笹ノ極白大布ナリ至テ
 見事ト云フモノ是レナリ、

花戸ヲロシマト稱スル小篠アリ、葉莖共ニ兒篠
 ヨリ一層小ナルモノナリ、人家植ヘテ盆玩トシ、
 又假山盆池ノ石隙ニ植ユ、此篠最小ナレドモ根
 能ク蔓延ス小盆ニ植ル時ハ根莖盆ニ滿ルニ至
 ル、
 又ガムロザト稱スルモノアリ、莖柔順ニシテ
 枝ナク、葉面黄縦道アリ、葉モ軟ニシテ觀美ナリ、
 登盆シテ甚ダ愛スベキモノナリ、
 毳竹
 毳竹ハ別ニ種類アルニアラズ、江南竹、人面竹等

毳竹



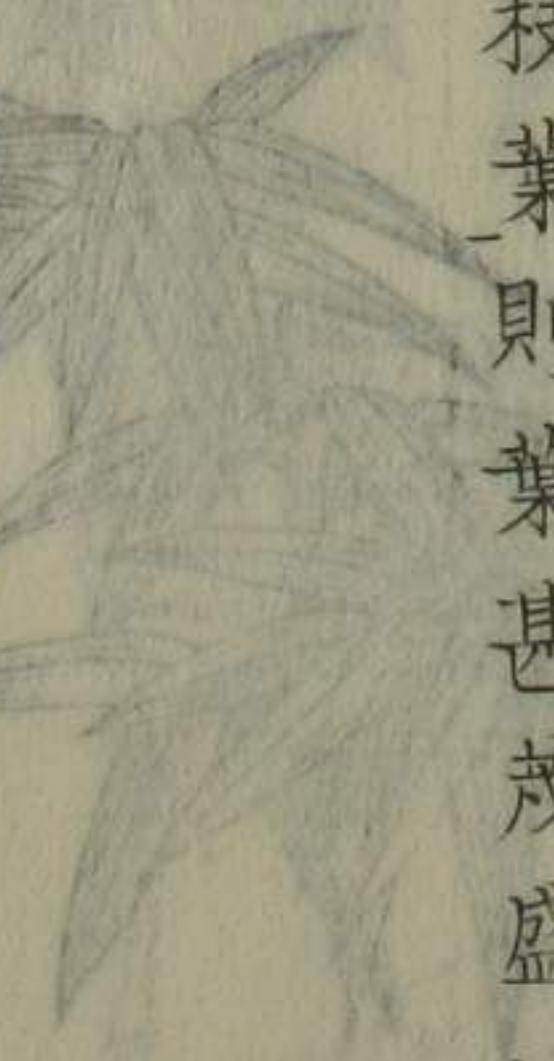
其葉如扇



其葉如扇

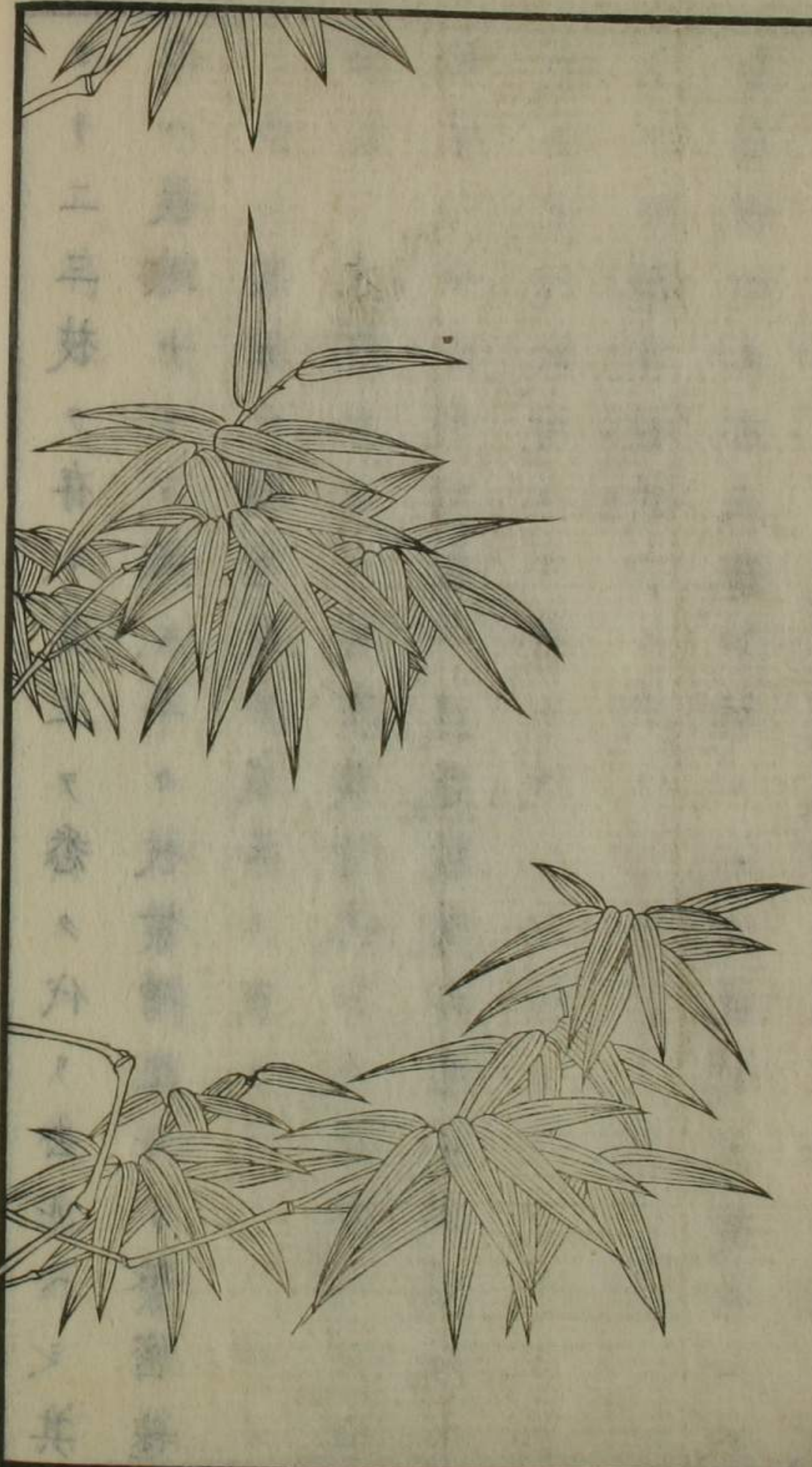
ヲ栽へ、其上幹ヲ切り去レバ、梢上自然數枝ヲ叢
 生シ、年ヲ經テ枝葉繁密、其形狀毬ノ如シ、故ニ花
 戸毬竹ト名ケ、又百葉竹ノ名ヲ冠スルニ至ル、増
 補地錦鈔ニ云フ、竹ノ類、五六月末ヲ切テ置ケバ、
 葉ユモルモノナリ、作り竹ノ仕様ハ、竹ノ子ノ時
 皮ヲムキ取ル口傳トアリ、毬竹ヲ作ルニハ、江南
 竹又ハ人面竹ニテモ、筍ノ發生シテ土際ノ一籜
 ヲ殘シ、第二三節ヨリ幹ヲ傷ケザルヨウニ、勉テ
 早ク籜ヲ剥ク可シ、左スレバ節間相促リテ、短竿
 トナル、筍既ニ長ジテ枝ヲ發スルノ後、適宜ノ所

ヨリ二三枝ヲ存シ、其上ヲ悉ク代リ去ルベシ、其
 年ハ枝疎ナリト雖モ、年々枝葉增生シテ繁密毬
 ノ如ク、百葉一團、毬狀ヲ成スニ至ル
 和漢三才圖會云、一枝百葉竹未知有也、否、今苜下
 枝葉及中心梢、頂上一處遺枝葉、則葉甚茂盛、如一
 枝百葉作り成者也ト是ナリ、
 羅漢杖竹



羅漢杖竹モ亦人造ノ竹ニシテ、此竹ヲ造ルニハ、
 苦竹ノ小ナルモノヲ栽へ、筍ノ出ヅルヲ見レバ、
 解籜ヲ俟タズ本幹ヲ傷メザルヨウニ早ク籜ヲ

羅漢杖竹



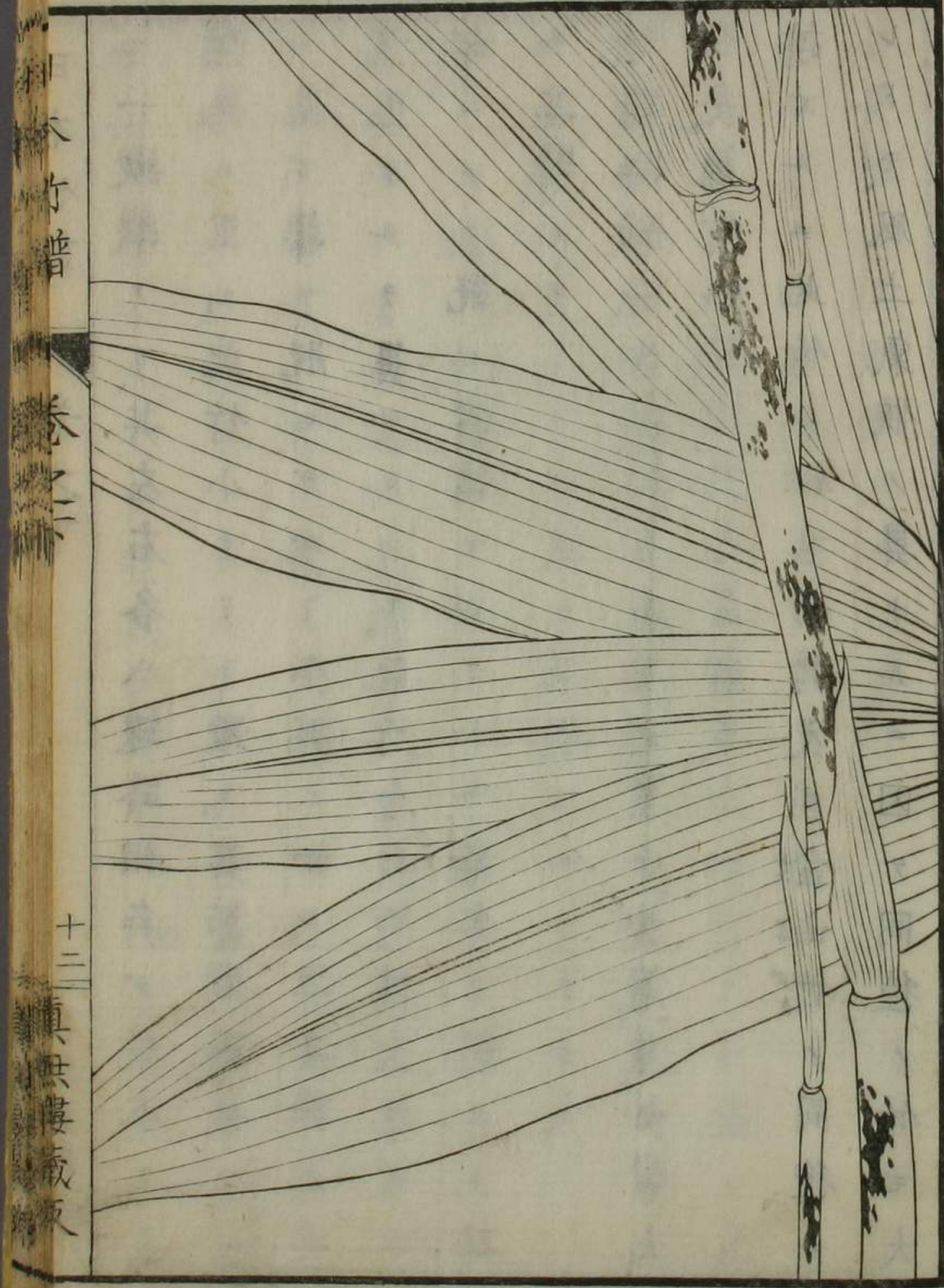
竹譜 卷之四 荆楚竹譜

剥キ採レバ、毎節間、彎曲シテ蛇ノ如ク、又臂膝ノ如ク、種々ノ狀ヲ爲スモノナリ、某家主人、苦竹ヲ栽ヘ、年々新筍ノ籜ヲ剥キ之ヲ造リ、種々ノ形狀ヲ成スヲ見テ樂トス、今十餘竿小叢ヲ爲セリ、其法ヲ聞クニ、毎日籜一枚ヲ剥キ取レバ、尤モ能ク彎曲スト云フ、但シ竹林ニ生ズルモノハ、藩籬或ハ他ノ木石等ニ壓セラレテ此狀ヲ爲スモノアリ、漢土ニハ自然生ノ羅漢杖竹アリト云フ、竹譜詳録云、羅漢杖竹、生紹熙麻即古榮州也、東有榮黎山、山中産此竹、屈曲如龍蛇之狀トアリ蓋シ

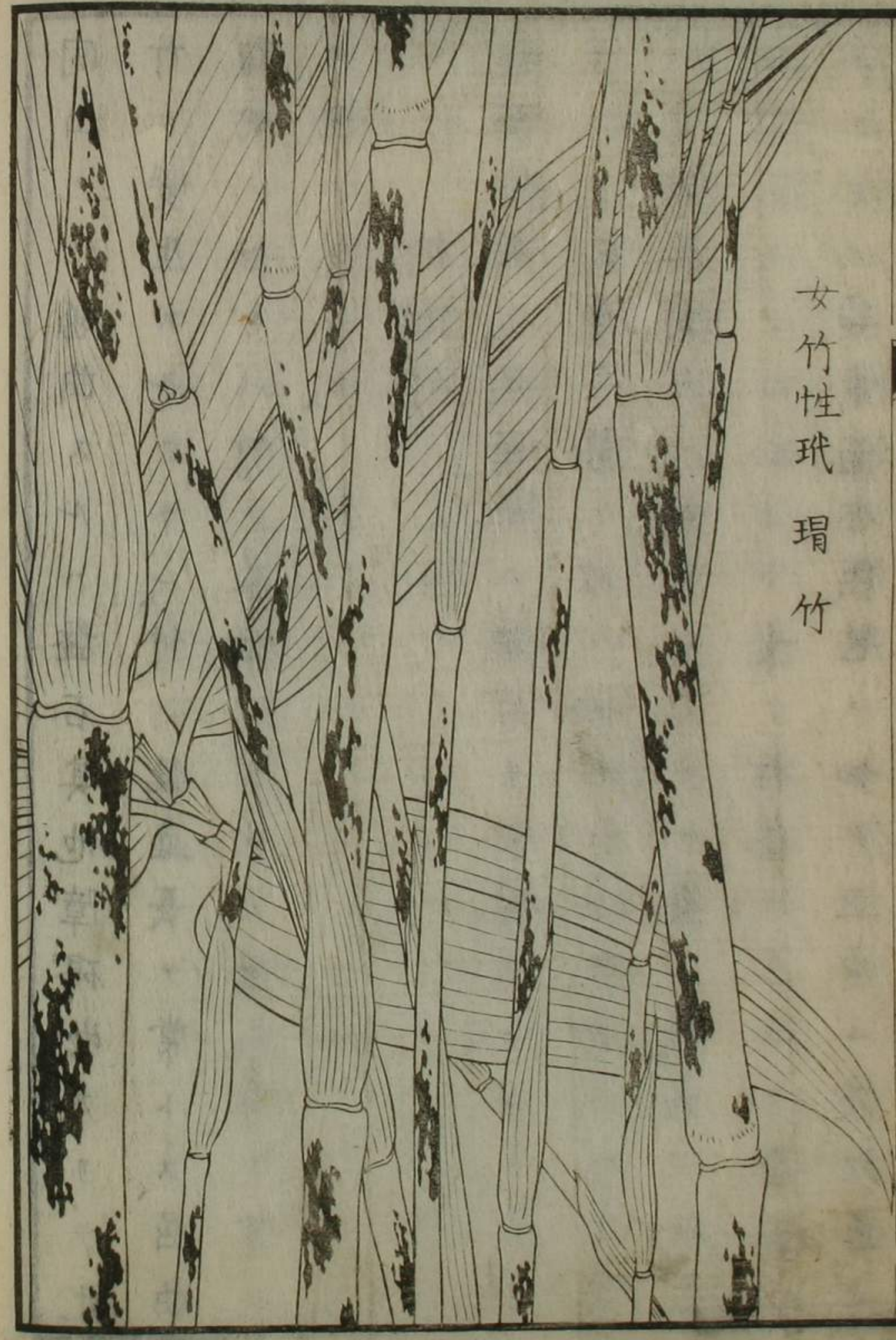
同山ノ竹、屈曲スルハ盤石其他障碍物アリテ此竹ヲ變生スルナラン、竹ノ性直長ヲ常トス、屈曲龍蛇ノ如キハ竹ノ本性ニアラズ、漢人奇ヲ賞シテ理ヲ察セズ、

玳瑁竹

桂園竹譜云、玳瑁竹ハ漢名ヲ紫箒竹ト云フ、其高サ二尺許、葉ハ箬ニ似テ細小ニシテ長八九寸、廣一寸餘、其葉凡七八葉ヲ以テ一朶トス、或ハ五葉六葉ノモノハ必ズ下葉ノ枯落セシニテ全形ニハアラズ、其葉面亦熊箒ノ如ク、正中ニ淡紅色ナ



日本竹譜
卷之十
十二
真無樓藏版

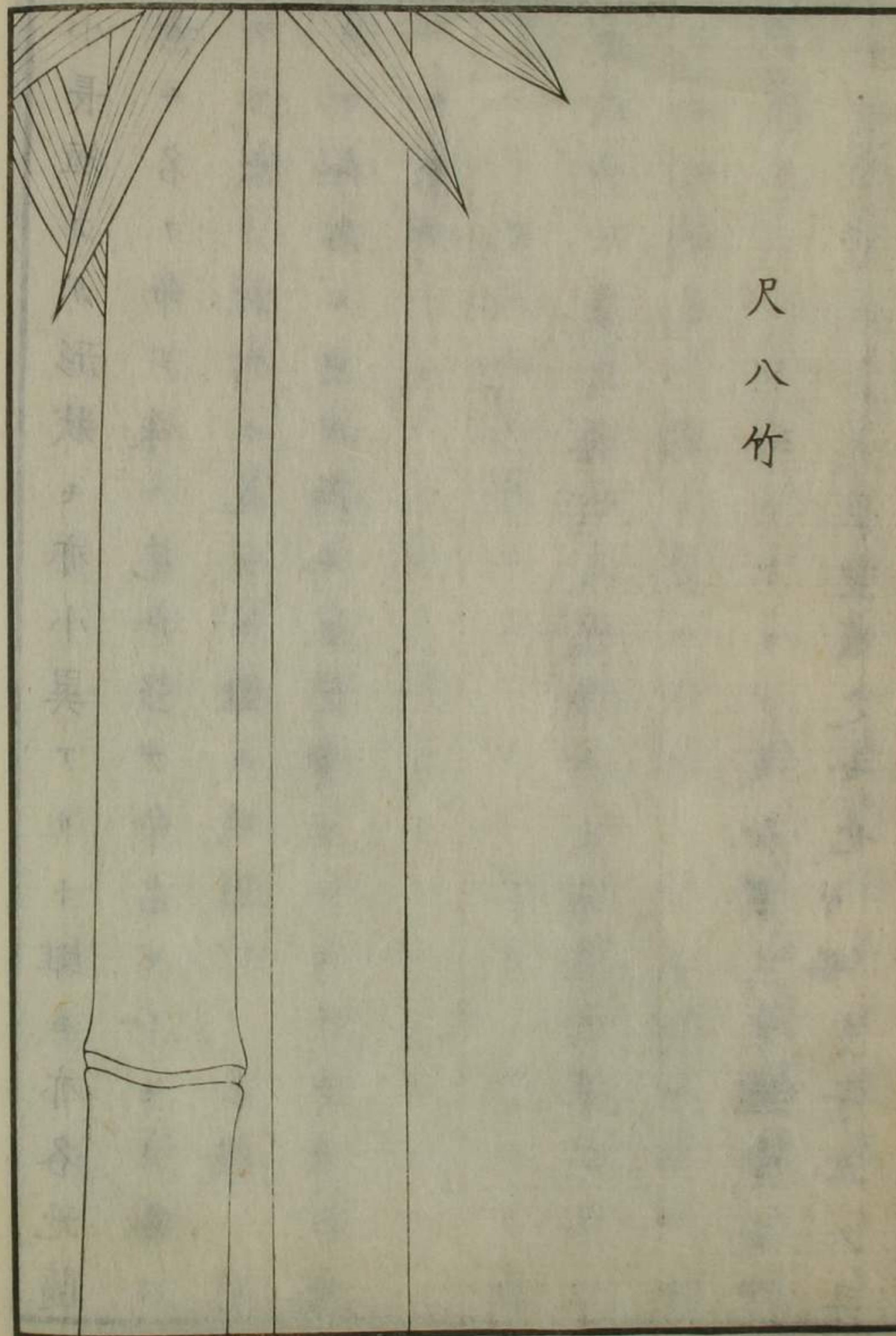
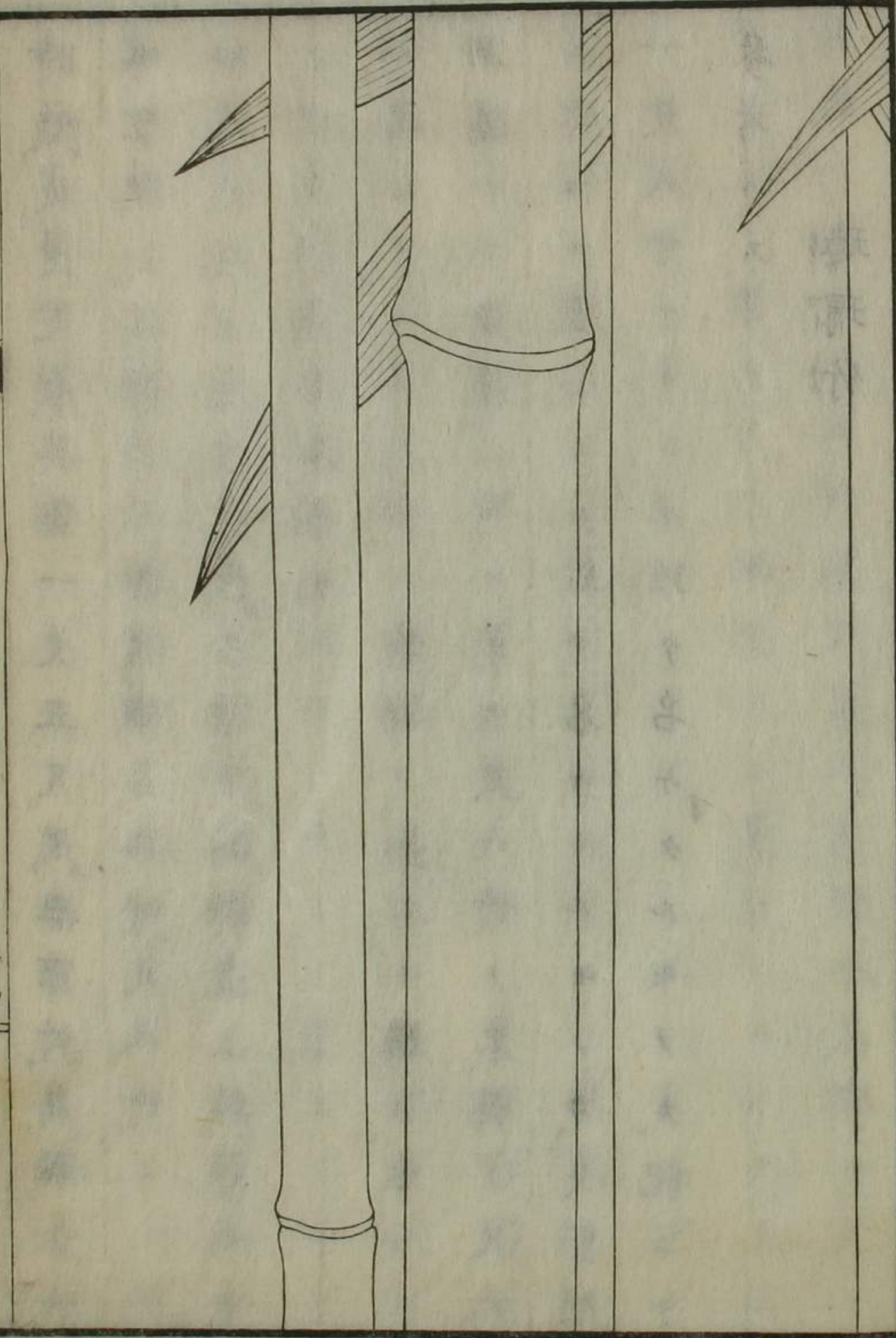


日本竹譜
卷之十
女竹性玳瑁竹
真無樓藏版

ル一縦線アリ、其左右各八線路相并テ葉本ヨリ
 葉先ニ至ル此竹小ナリト雖モ、其節間獨枝ヲ生
 シ及ビ籜ヲ脱セザル_ト亦箬ノ如シ、但毎節下紫
 黒色ナルヲ異ナリトス、此竹今白河侯大塚ノ下
 邸ニアリ既ニ移植セシヨリ十餘年ヲ經ルト雖
 モ其時ノマ、ニテ更ニ成長スル_トナシト、
 竹譜詳録云、白蒨竹、在處有之莖小於箬葉如掌大、
 而長蒨竹亦同、但莖色黒紫耳、
 按ズルニ此竹ハ、砂古丹竹、及ビ金山竹ノ同種ナ
 レドモ、風土氣候ノ異ナルニ因テ同種ノ竹モ大

小長短アリ、形狀モ亦小異アリト雖モ、亦各地隨
 意ニ名ヲ命ジ殊ニ花戸強テ命名セシモノ歎カ
 ラズ、未_レ此竹ヲ見ズト雖モ、玳瑁竹ノ名蓋シ花
 戸ノ命名ニ出デ而シテ附會セシモノナラシ、記
 シテ參考トス、
 尺八竹シヤクハチ
 尺八竹ハ漢名通竹、又通節竹、又無節竹等ノ名アリ、
 本邦備後ノ國ニ産スト云ヘリ、未_レ見タル_トナ
 シ、往年アリテ今ナキモノカ、和漢三才圖會云、中
 將姫者横佩右大臣豐成之女也、中略亥子丑ノ三

日林竹譜
 卷之四



尺八竹

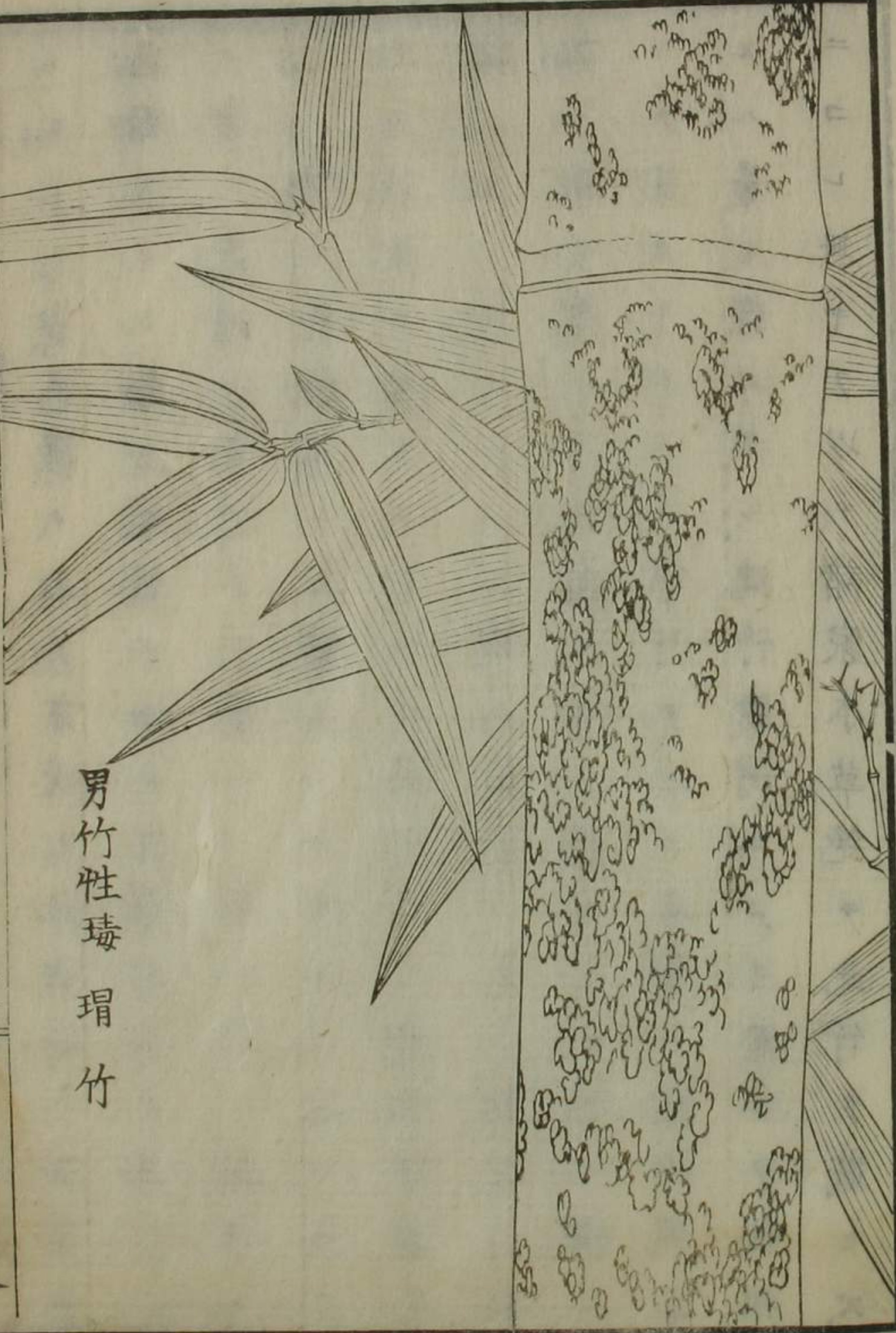
時織成曼陀羅其幅一丈五尺用無節竹為軸云々
 本草觴云無節竹出備後姬谷俗呼尺八竹
 秘傳花鏡云通節竹產於漆州其幹直上無節而中
 心空洞無隔亦異種也

今按ズルニ尺八竹ハ前述ノ如シト雖モ未ダ空
 洞隔ナキ無節ノ竹ヲ見ズ尺八竹ノ名笛ノ尺八
 ニ作ルニ宜シキヲ以テ名ケタルモノカ又節間
 一尺八寸アリシヲ以テ名ケタルモノカ記シテ
 參考トス

瑤瑁竹

桂園竹譜云瑤瑁竹駿州藤川近傍本島郷ニアリ
 苦竹ノ一種ニシテ斑文アル長大ノモノナリ往
 時某駿河ニ至リ始メテ此竹ヲ見出シ其上下ヲ
 截リ去テ長八尺餘周九寸許ノモノヲ携來リシ
 ヲ一見スルニ其幹半バ黄色ニシテ半バ節間皆
 大斑文アリテ其狀一樣ナラズ或ハ一方ニクビ
 レタル所アリ晩生ノ胡瓜ノ曲リテ最大ナルガ
 如シ或ハ左右ニクビレテ腹壺ノ如ク或ハ本小
 末大ニシテ團扇ノ狀ノ如シ或ハクビレタル所
 ナクシテ只紫黑色ノミナルモアリテ其斑文何

本草綱目卷之二十一



男竹性毒瑁竹

十六 真無樓歲反



本草綱目卷之二十一

真無樓歲反

レモ下ノ方、色濃ク、上ノ方淡シ、凡斑竹ハ和漢其
 品類多シト雖モ此竹ノ如ク自然斑文ノ異ナル
 ハ實ニ天下ノ奇竹ナリ、爰ニ八年ヲ經テ乾枯セ
 シ一幹ノ形狀ノミヲ擧クレ、其生竹及ビ細小
 ナル竹多ク生ズトイヘバ、其斑文ノ變化百出、異
 狀ノモノ多カルベシ、或人其地ニ至ル時、土人其
 幹ヲ裂テ篋トシ蛇籠ヲ作り、藤川ノ水防ニ供ス
 ルヲ見タリ、カ、ル奇竹ヲ以テ尋常ノ用ニ供ス
 ルハ最モ惜ムベシ、此竹駿河ニノ産シテ他邦
 ニコレ無キヲ以テ、諸家本草絶テ此竹ヲ載セズ、

往時或人其地ニ至リ携へ來リシヲ始メトス、故
 ニ世人嘗テ此種ヲ知ルモノナシ、瑤瑁竹ハ駿河
 ノ方言此竹斑文極メテ大ナリト雖モ、其狀瑤瑁
 斑ニ彷彿タリ故ニ名ク云々ト今按スルニ此竹、
 男竹性ノ斑竹ニシテ斑文ノ美ナルニ因リテ、強
 テ名ヲ命セシモノナラン、圖ヲ見テ考ルニ蓋シ
 丹波斑竹ト同種ナルベシ、
 篋筭竹
 篋筭竹ハ一名蓋竹、高サ五六尺、枝葉幹共ニ箭竹
 ノ如ク、每葉白色ノ間道アリ、又間道ナクシテ其

本草綱目 卷之十一 竹譜 沈竹

色箭竹葉ニ同ジキモノアリ、往時清人ノ携ヘ來
リシモノナルベシ、今白河侯大塚ノ下邸ニアリ、
其全形箭竹ノ一種ニシテ葉ニ間道アリ、籜脱セ
ズ、此竹每節上半バ鹿漚如、砂紙以テ物ヲ磨クベ
シト桂園竹譜ニ見ユ本綱ニ其性或ハ瀦ト謂フ
ハ此竹ノ類ナラシカ

秘傳花鏡、篋笏竹、出新州、一枝百葉、皮利、可作礪甲、
用久、微滑、以酸醬漬、過宿、復快利、如初、多作笏箭、
云フモノ是レナリ、然レドモ筠鹿漚ニシテ砂紙
ノ如ク物ヲ磨クベキ竹ヲ見ズ、竹ノ筠ハ玻質ヲ

以テ成ルモノナレバ、若シ鹿漚ナラバ物ヲ磨ク
ニ足ルベシ、方竹ハ差其趣アレドモ、未ダ以テ物
ヲ磨クニ足ラス、記シテ参考トス、

沈竹

沈竹ハ、漢名蟲竹ト云フ、此竹肥前佐賀ニ産スト
云フ、漢土ニ産スルモノハ每節虫ヲ生ジ、新蟬ノ
未ダ翼セザルモノニ似タリト云ヒ、本邦ニ産ス
ルモノハ、其虫飛廉ノ如シト云フ、
本草一家言云、有虫竹、生虫、形如油虫、者、肥前佐賀
産之名沈竹、

竹譜 卷之十一 十八 沈竹

竹譜詳録云、蟲竹、生七閩山中、叢生如蘆、每節生一蟲、如新蟬之味、翼者、外無竅、隨竹而生、竹將老、乃穴其旁而出、今婺州東陽山中亦有之、

右桂園竹譜ニ載スル所ナリ、福岡縣下ニ「チンチク」ト稱スルモノアリ、其葉短小ニシテ鳳尾竹ノ如シ、此竹ヲ栽ヘテ士卒邸ノ垣トナス、刊「チンチク」カベト稱シ甚之ヲ卑ム、筑前ニ産スル「チンチク」ハ大ニシテ土佐ノ土用竹ノ如シ、此竹風ニ強クシテ倒レテ復起ルト云フ、其他「チンチク」ト稱スルモノ各地ニアリ、肥後蘆北郡ニ産スル「チンチク」

一名和タルザト云フ竹アリ、三河ニテ「チンチク」ト稱スルモノハ人面竹ナリ、越後ノ「チンチク」ハマガリダケナリ、此他「チンチク」ト稱スルモノアレドモ、未ダ每節一蟲ヲ生ズルノ竹ヲ見ズ記シテ参考トナス、

漢竹

漢竹ハ伊豫ニ産スト云ヒ、又相摸國酒匂川ヨリ三里半程在、金子村ニ金子市左衛門ト云フ農家ノ藪ニ此竹アリト桂園竹譜ニ見ヘタリ、竹譜云、漢竹、筍大者一節受一斛、小者受數斗、可爲

本草綱目 卷之二十一 竹譜 真無妻歲反

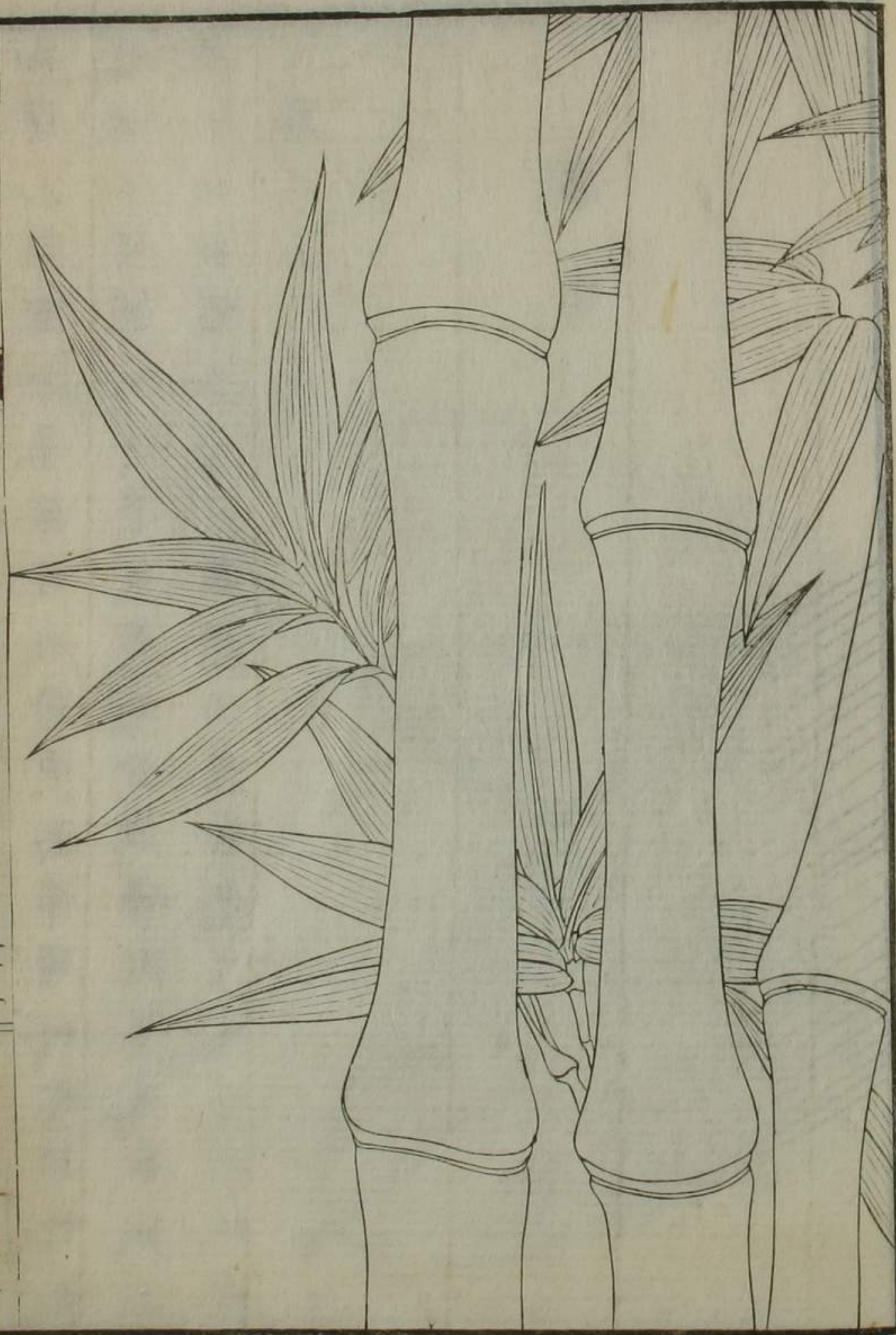
樽榼其筍一節可受二三升、
和漢三才圖會漢竹出雲南永昌可為桶斛五雜俎
羅浮巨竹圍二十尺有三十九節々長二丈
秘傳花鏡云龍公竹產羅浮山其經大七尺許節長
二丈葉如芭蕉又云臨賀竹其幹之大至有十抱較
之龍公竹更奇也出臨賀竹譜詳錄云籠葱竹生羅
浮山因名羅浮竹皆十圍云
按ズルニ伊豫及ビ相模ニ産スル漢竹ト稱スル
モノハ苦竹ノ適地ニ産シテ長大圍ニ二尺許ニ
至ルモノニシテ龍公竹臨賀竹ノ種ニアラザル

ベシ

出ぶ多け

出ぶ多けハ高節竹一名筇竹又扶老竹又銀鋌竹
往時舶載アリテ今時ナキモノカ桂園竹譜ニ六
七十年以前舶來アリシヲ松平播磨守園中ニ植
ラレシガ僅カ三四年ニシテ二間四方程ニ繁茂
セシ由今ハ絶テナシ多紀家傳ル一枯竹ヲ圖シ
テ載セタルアリ全形赤黒ニシテ徑三四分長三
尺ノ間ニ六節アリ節ノ狀筭珠ニ似テ扁大ニシ
周三寸アリト

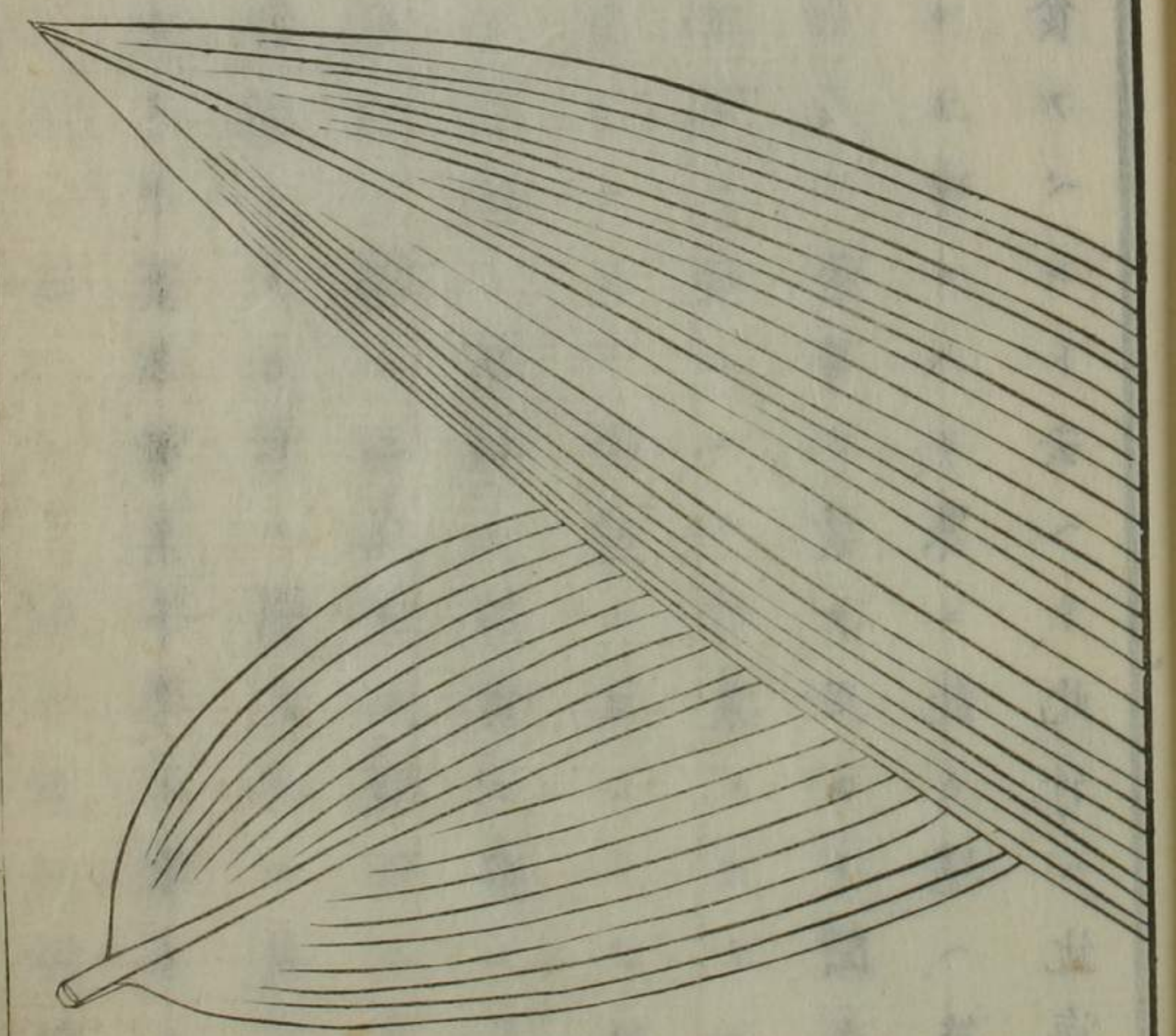
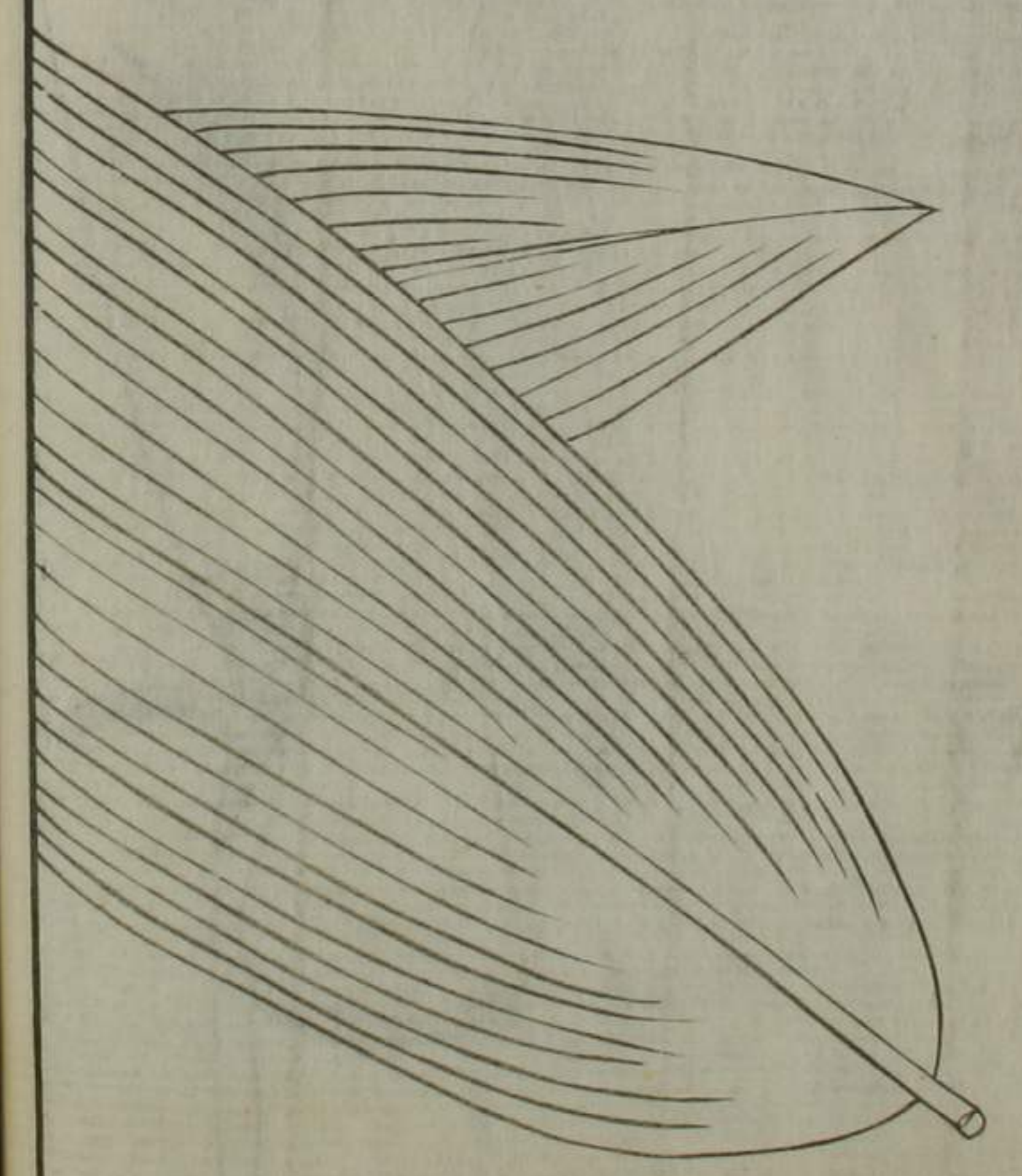
日本竹譜 卷之下 二十 真無妻歲反



こぶ多け

和漢三才圖會暴節竹出蜀中高節礮柯即節竹也
竹譜所謂竹之堪杖莫尚於節礮柯不凡狀如人
功豈必蜀壤亦產於餘邦一曰扶老一曰是レコブ竹
ノ類ナランカ

箬竹



日本竹譜
卷之下
二十
真無樓藏板

管竹

管竹、一名箴竹、又竿箴、湘箴、箭竿等ノ數名アリ、此竹一尺ノ間數節アリテ、葉ノ闊大ナル辰ノ如ク、又扇ノ如シ、此竹ハ詩ニ云淇澳ノ綠竹ナリト、往年長崎ニ來ル支那ノ商舶ハ、竹葉ヲ編ミテ帆トナシ、彼地ヲ發シテヨリ長崎ニ至ルマデ帆ヲ下スヲナシト、其帆ヲ編ムニハ竹葉ノ大ナルモノヲ撰ム、此管竹及ビ若等ノ葉ヲ用ユト聞ケリ、又此竹ハ、根深ク土中ニ入り、寒ニ能ク堪ヘ、筍ハ冬復共ニ生ジ食フベシト云ヘリ、此竹ハ北海道ニ

移サバ將來蕃殖スルナランカ、

和漢三才圖會云、管竹、出荆南一尺數節

竹譜云、管亦箇徒、概節而短、江漢之間謂之、竿箴、竹根深耐寒、茂彼淇苑

以て竹

以て竹ハ和漢三才圖會云、棘竹、希有之、然小竹不見大者、ト、桂園竹譜ニ諸書ヲ援引シテ棘竹ノ異名十餘ヲ列記シ、又棘竹ノ圖ヲ載ス、其圖和漢三才圖會ト同ジカラズ、按ズルニ、本邦未ダ棘竹アルヲ聞カズ、蓋シ漢土ニハ棘竹、根如堆輪、節如

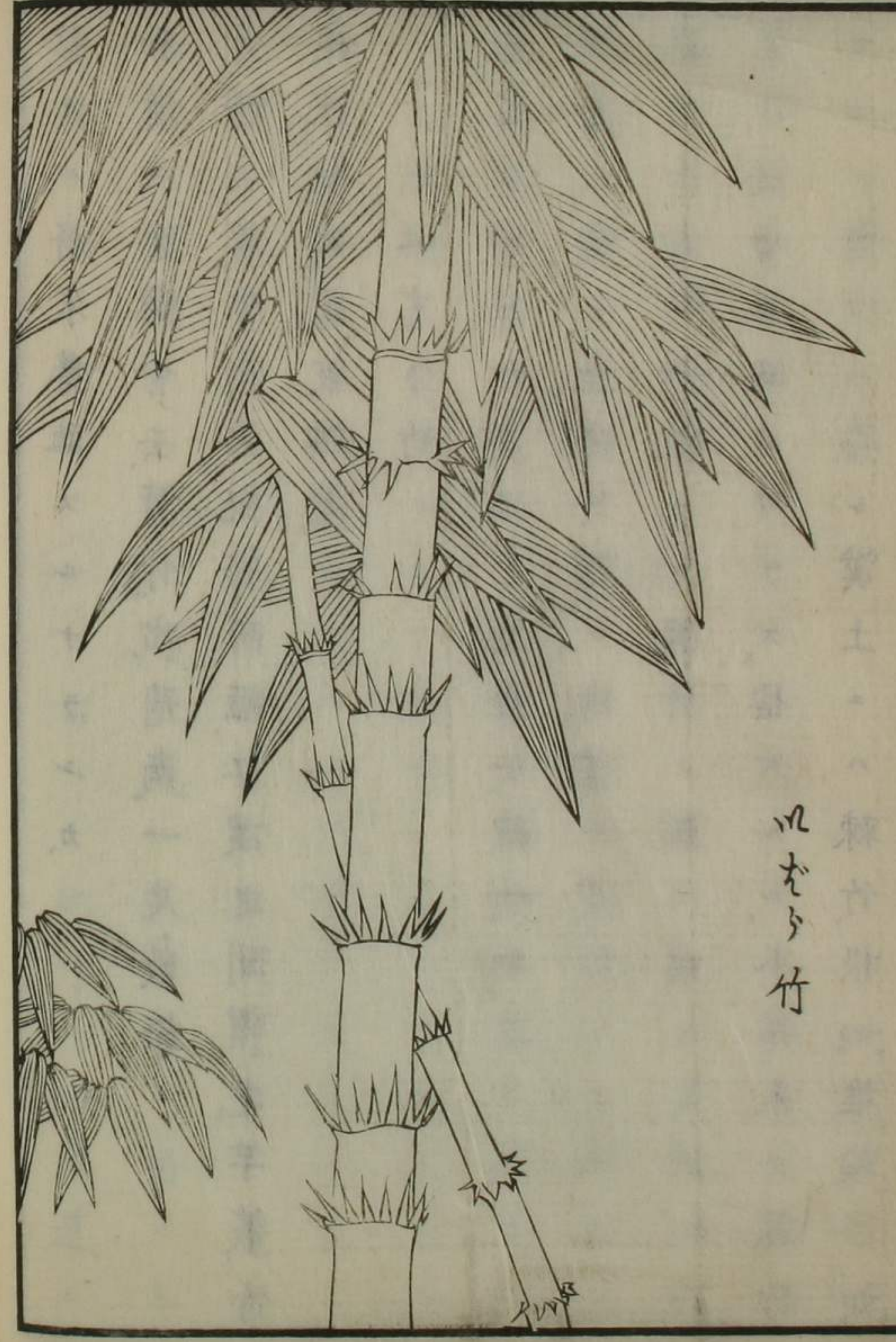


日本竹譜

卷之四

二十四

真在樓藏版



日本竹譜

卷之四

以老竹

真在樓藏版

本草綱目卷之二十一

束針ト竹譜ニ出ヅルヲ見レバ、棘竹ト號スルモノハ桂園竹譜圖スル處ニ似タリト雖モ本邦棘竹ノ名變生ニ依テ命名セシモノナラン、今苦竹ヲ庭中ニ植ヘ、出筍ノ時ニ際シ、籜ヲ悉ク剥ギ取リテ放置スレバ、全竿每節種々ニ屈曲シ三才圖會ニ圖スル棘竹ニ異ナルナキモノニ變ズ、又千里竹ノ類ヲ棘竹ト號ス、荆棘ノ刺針ト均シク、耕耘者ノ妨害ヲ爲スモノナレバ棘竹ト云フテ可ナランカ、又竹ノ斷株ヲ鬼齒ト號ス、山野ヲ跋渉スル者之ニ觸レバ刺傷セララル、猶鬼齒ニ啗マ

真無刺竹

ル、如キノ謂ナラン、和漢物ニ命名スル大略斯ノ如シ、棘竹ノ名モ、荆棘人ヲ妨害スルニ均キヲ以テ、今山野自生ノ竹ニ命名スルモ可ナリ、竹譜ニ謂フ處ノ棘竹及ビ本綱云フ所、圍二尺可以禦盜賊ト云フモノ本邦未ダアルヲ聞カズ

さかき後け

逆竹ハ、容易ニ之ヲ造リ得ベシ、其法散生類ノ竹根ノ地上ニ挺出スルモノヲ起シテ、鞭根末ヲ地中ニ埋シテ、鬚根密生シ枝葉ノ能ク發生スルヲ待テ後、鞭根ノ本ヲ剪放スレバ逆生ノ竹トナル

竹譜 卷之二十一 二十五 真無刺竹

モノナリ、北越奇談ニ逆竹ヲ載スルト雖モ、是亦人造ノ竹ニシテ、自然ノ逆生ニハアラザルベシ、北越奇談ニ云フ、逆竹ハ新潟ノ上鳥屋村ニアリ、是レ親鸞上人ノ舊跡ニシテ今尚ホ竹篁幽遠ク、昔シハ逆生ノ竹モアリシト云ヘリ、今ハ絶ヘテナシト、

竹ノ諸法

一竹ノ節間ヲ短クスル法 釣竿又ハ杖等ニ用ルニ、節間ヲ短縮スル一法アリ、筍ノ出ル凡ソ八九尺ノ頃、籜ヲ剥キ取り置クベシ、

一竹ヲ輕クスル法 新竹ノ將ニ成熟セントスル前ニ伐り取り、梢ニ重石ヲ釣り下ゲ、煙氣ノ在ル所ニカケ乾スベシ、
一竹ヲ平扁ニスル法 竹ヲ伐り、前後ノ節ヲ去リ、外皮ノ堅キ部ヲ削り去り、一方ヲ割り之ヲ釜ニ投ジ、蕎麥殻ヲ入レ、能ク煮沸シテ、柔ナルモノヲ取り出し、平ナル臺ニ安置シ、割リタル口ヨリ木ヲ嵌メ徐々ニ開放シテ、若シ一回ニテ全ク開カザレバ、又煎沸シテ之ヲ開カシムス。クシテ全ク平扁ナルニ至ラバ、別ニ灼鉄ヲ

以テ外面即チ皮ヲ削リタル跡ヲ灼シ反張ヲ防グベシ、灼鉄ニテ焼ケタル部ハ、鉋ヒキヲ以テ削リ去ルベシ
又法ヲタケニグサト云フ草アリ、之ヲ以テ竹ヲ煎レバ柔軟ニナルト云フ、タケニグサハ通名チヤンパキク、漢名ヲ博落廻ト稱シ、罌粟科、宿根草ナリ、山野路傍ニ自生シ、葉ハ菊ニ似テ甚大ニ、又白屈菜ニ似テ肥タリ、葉背白色、切レバ黄赤ノ汁出ヅ、秋ニ至テ莖頂ニ穂ヲナシテ小白花ヲ開キ小扁筴ヲ結ブ小黑子アリ、此根

ハ黄色ニシテ黄芩ニ似タリ、大毒草ナリ、此草竹ヲ煮ルニ用ユ故ニタケニグサノ稱アリ、一竹ヲ曲ル法復日螢ヲ捕ヘ陰乾ニシテ貯ベ置キ、水一升ニ螢ヲ適宜ニ入レテ竹ヲ煎沸スレバ自在ニ屈曲スト云フ、
一鼈甲竹 鼈甲竹ヲ作ルニハ、絲又ハ繩ニ泥水ヲ塗リ、之ヲ以テ隨意ニ縛シ、火ニ上セテ之ヲ焙ルベシ、絲繩ノ外ハ焼ケテ泥土ノ部ハ白ク存スルモノナリ、依テ之ヲ磨キテ製スベシ、又斑文ヲ正クシ、唐草カウキ又ハ紋形等ヲ出スニハ、燒

印ノ如ク隨意ノ形ヲ作り灼シテ之ヲ製スベシ、

一竹ヲ燻ラス法 近來^{イナ}又ハ^{イナ}編^{イナ}幅^{イナ}傘^{イナ}ノ柄等ニ

作ル竹ノ燻シ方ハ初メ能ク竹ヲ磨キ外皮ヲ

削リ去リ、硝酸ニ水ヲ和シ、稀薄ナラシメ之ヲ

塗リ、乾テ後能ク洗ヒ、烟筒ニ入ル、カ、又ハ火

ニ燻スベシ

一和漢三才圖會ニ竹^{イナ}變^{イナ}斑^{イナ}點^{イナ}法アリ神仙巧法云、

礶^{イナ}砂^{イナ}一錢、青鹽^{イナ}五分、五倍子^{イナ}二分、各細末、用^{イナ}陳^{イナ}醋^{イナ}調、隨意點^{イナ}在^{イナ}竹子^{イナ}上^{イナ}、用火^{イナ}乾^{イナ}即^{イナ}現^{イナ}黑^{イナ}斑^{イナ}、其^{イナ}効^{イナ}立^{イナ}見^{イナ}

點假^{イナ}棕^{イナ}竹^{イナ}亦用^{イナ}此^{イナ}藥^{イナ}

一竹ヲ晒ス法 竹ヲ伐リ之ヲ^{イナ}泔^{イナ}水^{イナ}ニ^{イナ}漬^{イナ}ス^{イナ}二^{イナ}三^{イナ}晝^{イナ}夜^{イナ}之^{イナ}ヲ^{イナ}取^{イナ}出^{イナ}シ^{イナ}、^{イナ}粗^{イナ}ニ^{イナ}砂^{イナ}ヲ^{イナ}交^{イナ}ゼ^{イナ}テ^{イナ}能^{イナ}ク^{イナ}之^{イナ}ヲ^{イナ}拭^{イナ}

ヒ、晴天ニ曝スベシ、

一節ヲ貫ク法 鐵棒ヲ以テ、三四節ヲ穿テ、後ハ

其鐵棒ヲ投ズル機^{イナ}勢^{イナ}ニ^{イナ}乘^{イナ}ジ^{イナ}テ^{イナ}悉^{イナ}ク^{イナ}穿^{イナ}貫^{イナ}ス^{イナ}マ

シ

一竹ヲ割ルニ法アリ、俗ニ木根^{イナ}竹^{イナ}掘^{イナ}ト^{イナ}稱^{イナ}ス、必^{イナ}抄^{イナ}

末^{イナ}ヨリ^{イナ}割^{イナ}リ^{イナ}テ^{イナ}根^{イナ}ニ^{イナ}至^{イナ}ル^{イナ}ベ^{イナ}シ

一竹ニ字畫ノ腐蝕ヲ現ス法 竹ニ天然ノ如ク

文字又ハ繪畫ニテモ腐蝕セシムルニハ、胡桃ノ皮ヲ採來リテ、其皮ヲ以テ、文字又ハ何ニテモ形ヲ造リテ、之ヲ竹ニ粘附シテ、上ヲ糸索ニテ卷キ胡桃皮ノ脱セザルヨウニ縛シテ釜ニ入レ、適宜ニ煎沸スレバ、胡桃皮ノ附シタル跡ハ、天然ノ如ク字畫ノ腐蝕痕ヲ現スモノナリ、
 一竹彫刻法 竹ヲ能ク磨キ白蠟ヲ塗リ蠟ノ上ニ書畫ヲ彫リ、硝酸ヲ注テ竹ヲ腐蝕セシメテ後、蠟ヲ拭ヒ落セバ、書畫粲然トシテ現出ス
 一竹絮製法 竹絮ヲ製スルニハ、竹ヲ水ニ浸シ

片双ノ利刀ヲ以テ外皮ヨリ漸々ニ削リ、之ヲ乾シテ蒲團又ハ椅子等ニ入ル、
 一竹火繩製法 竹ノ節間長キモノヲ擇ビ水ニ漬置キ、片双ノ利刀ヲ以テ細長ナル竹筍ヲ製シ、之ヲ三打ニ緬ヒ、長サ一二丈ニ至ラバ之ヲ張リ藁繩ヲ以テ之ヲ磨擦シテ滑澤ナラシメ、更ニ能ク之ヲ張り、重石ヲ鈞下テ之ヲ乾シ、適宜ノ長ニ伐リテ之ヲ卷テ用ニ供ス
 一竹繩製法 竹ヲ四割ニシテ、鉋ヲ以テ之ヲ削リ、水ニ漬テ之ヲ緬ヒ、藩籬又ハ足代丸太ヲ結

プニ用ユ、雨露ニ濕ヒ、又風日ニ曝ス所ニ用ヒ
 テ久ク朽敗セス
 一竹紙製造法 竹紙ノ用ニ供スルニハ苦竹其
 他纖維緻密柔軟ナルモノヲ良トス、其法苦竹
 ヲ適宜ニ截斷シ、之ヲ鐵槌ニテ打碎シ、滷汁鹽
 ヲ加ヘテ煎ルルニ三時間、纖維能ク分離スル
 ヲ認ヌテ、之ヲ清水ニテ能ク洗ヒ、且晒白粉ヲ
 以テ晒シ、抄紙槽ニ入レ、抄テ製スベシ、抄紙器
 械ニテ大ニ製造セバ愈益アリ、竹紙ハ其質強
 クシテ緻密純白殊ニ美麗ナリ

一杖ノ製法 近來輸出スル杖用ノ製法ハ、周リ
 四五寸ノ竹ヲ鬚根ト共ニ掘リ來リテ、長サ適
 宜ニ伐リ、鬚根ノ土ヲ能ク洗ヒ去リ、利カヲ以
 テ鬚根ヲ丁寧ニ伐リ、礪石ニカケテ能ク磨キ、
 曲リヲ撓メ外皮ヲ削リテ之ヲ製ス
 一弓材 苦竹ハ、竹肉堅實ニシテ節ノ低キモノ
 ヲ上品トス、古來弓材ニ用ヒシ竹ハ、皆苦竹ニ
 シテ、山城國葛野郡八幡山ニ産スルヲ以テ最
 良トス、弓師ノ説ヲ聞クニ、西京ヨリ來ル竹ハ
 外皮堅勁ナラズシテ竹肉硬シ、弓材ニシテ最

モ佳ナリ、東京地方ノ竹ハ外皮殊ニ堅勁ニシ
 竹肉軟ナリ、弓材ニ適セズ、古ヘハ弓材ニ用
 ヒシ跡ノ根本ノ竹肉厚キ處ヲ撰デ、刀劍ノ目
 釘ニ用ヒシト云フ、

一節間ヲ長クスル法 獸類死體ノ腐爛セシモ

ノアラハ之ヲ以テ筍ノ生ズル時、最モ勢力強
 キ大竹ヲ撰ミ、其根旁ヘ腐爛シタル肥料ヲ灌
 ギ、土ヲ以テ周圍ヲ封シ置キ、籜ノ早ク脱セザ
 ルヨウ、葦或ハ藁ヲ以テ籜ヲ縛シ置ベシ
 一 大和天井 大和天井ハ苦竹ノ割リタルモノ

又ハ篠竹ヲ能洗ヒ間隙ナク並ベテ、藤蔓ニテ

編ミ附テ筵ヲ敷キ、其上ヲ土ニテ塗リタルモ
 ノナリ、古ヘハ大和ノ國中、皆斯クノ如クナリ
 シトゾ、家ノ保チ強クシテ、塵埃飄落セズ、又鼠
 害ナク、蟲類墜チズ、又火災ノ時、屋上ニ火アル
 モ室内ノ器物ヲ取出スニ心安シト云フ、
 一竹ノ邇蔓ヲ防ク法 竹林ノ周圍ニ深キ溝ヲ
 掘リ、又ハ皂莢子ヲ集メテ、土中ニ埋ルモ、竹ノ
 邇蔓ヲ防クヲ得ベケレドモ、深溝ヲ穿ツハ勞
 多ク、皂莢子ヲ集ルモ亦難事ナリ、竹ノ邇蔓ヲ

日本竹譜 卷之十

防ク便法アリ、蕎麥殻ヲ埋メ置ケバ竹ハ蕎麥
 殻ヲ埋メタル所ヨリ遠ザカルモノナリ、又海
 邊ニ近キ所ナラバ、馬藻ヲ多ク採リ來リテ、邸
 宅田圃ノ週邊ニ埋メ置ケバ、大小ノ竹類蔓延
 シテ來ルヲナシ、
 一 水火豫防 邸宅ノ西北ニハ竹ヲ植ユベシ冬
 日北風ヲ防キ、夏日西日ヲ遮リ、火災ノ豫防ニ
 宜シ、又宅地及ビ田畑ノ近傍ニ川河アラバ、河
 岸ニ必竹ヲ植ユベシ、竹ハ柔靱ニシテ出水ノ
 時、流水ノ激勢ヲ減シ、田畑穀菜ノ流亡ヲ防グ

モノナリ
 一 竹蠟 薩摩地方ハ、最モ巨大ノ竹ヲ生ズル所
 ニシテ、竿ノ大ナルモノ徑六七寸餘ノモノアリ、
 是レ世人ノ知ル所ナリ、然ルニ江南竹一本
 ヨリ採收シ得ル蠟ノ量ハ凡ソ半紙ノ全葉ヲ
 以テ張リタル囊中半餘ニ及ベリ、尤モ木蠟ノ
 如ク多量ヲ採收シ能ハズト雖モ、虫白蠟ノ代
 用ヲナスニ足ルト云フ、其製法新竹ヲ採リ、適
 度ノ火氣ニ觸ル、時ハ、漸々油氣ヲ表面ニ發
 シ、美麗ノ光澤ヲ出ス
瀝即ナリ 新竹ノ度ハ、初復

日本竹譜 卷之十 三十二 眞無婁歲反

新筍解籜ノ後、五六ヶ月ヲ經ルニ至リ、節ノ邊ニ雪白ノ細粉アルヲ見ル、之ヲ採リ火ニ焙リテ蠟ヲ採リ得ルナリ

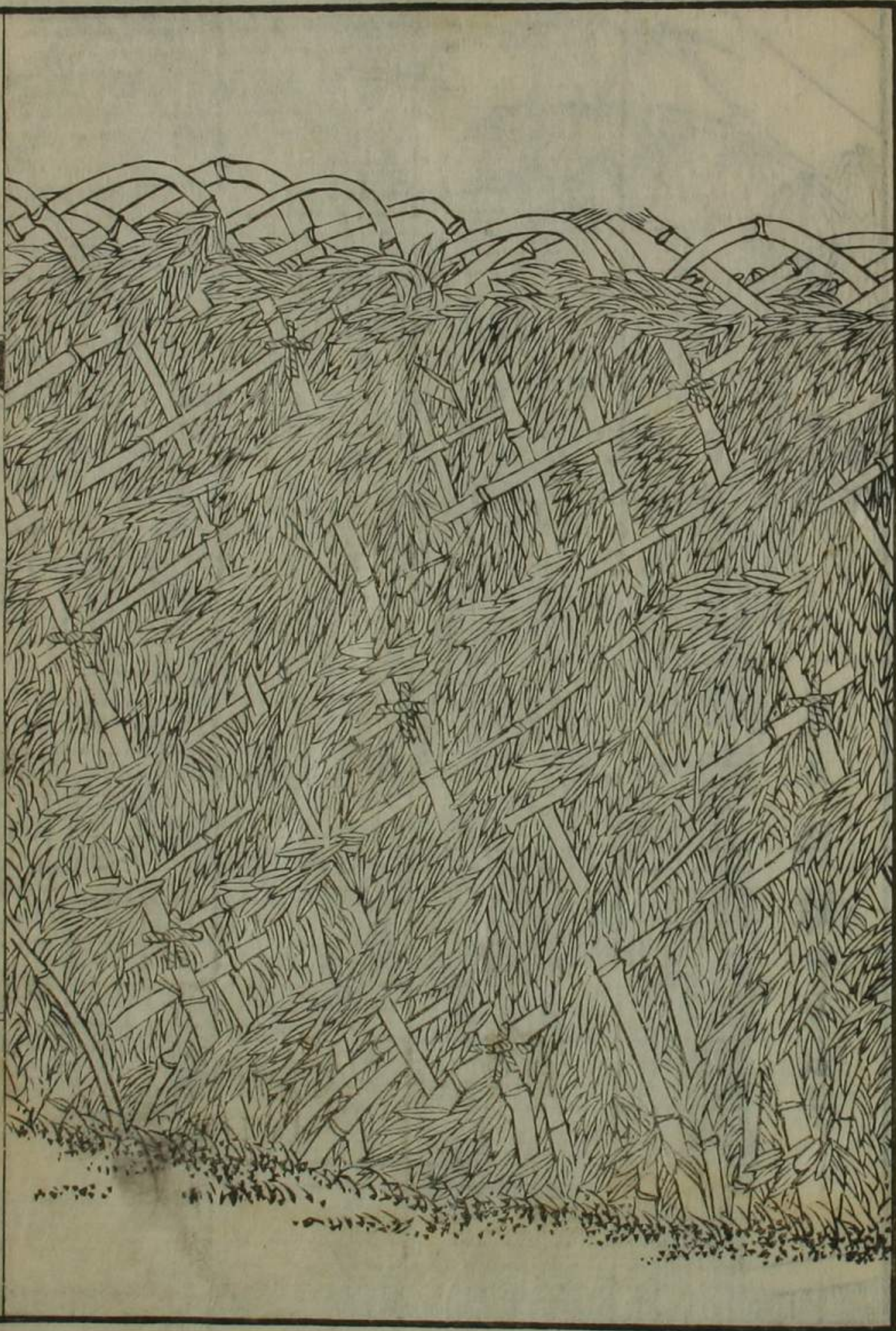
萬年藩籬ノ造法

別郎山莊ヲ多ク所有スル者、週遭ニ墻塼柵欄ノ類ヲ設ケテ、盜ヲ防ギ、經界ヲ正クセザルベカラズ、然レドモ數反歩、數町歩ノ塼柵ヲ設ルニハ多費ヲ要スベシ、故ニ斯ノ如キ地ハ、萬年藩籬ヲ設ルニ若クハナシ、其法ニアリ、含朶竹ノ丈餘ニ達スベキモノヲ撰ミ、多ク植ヘ置ケバ、年々蕃茂シ

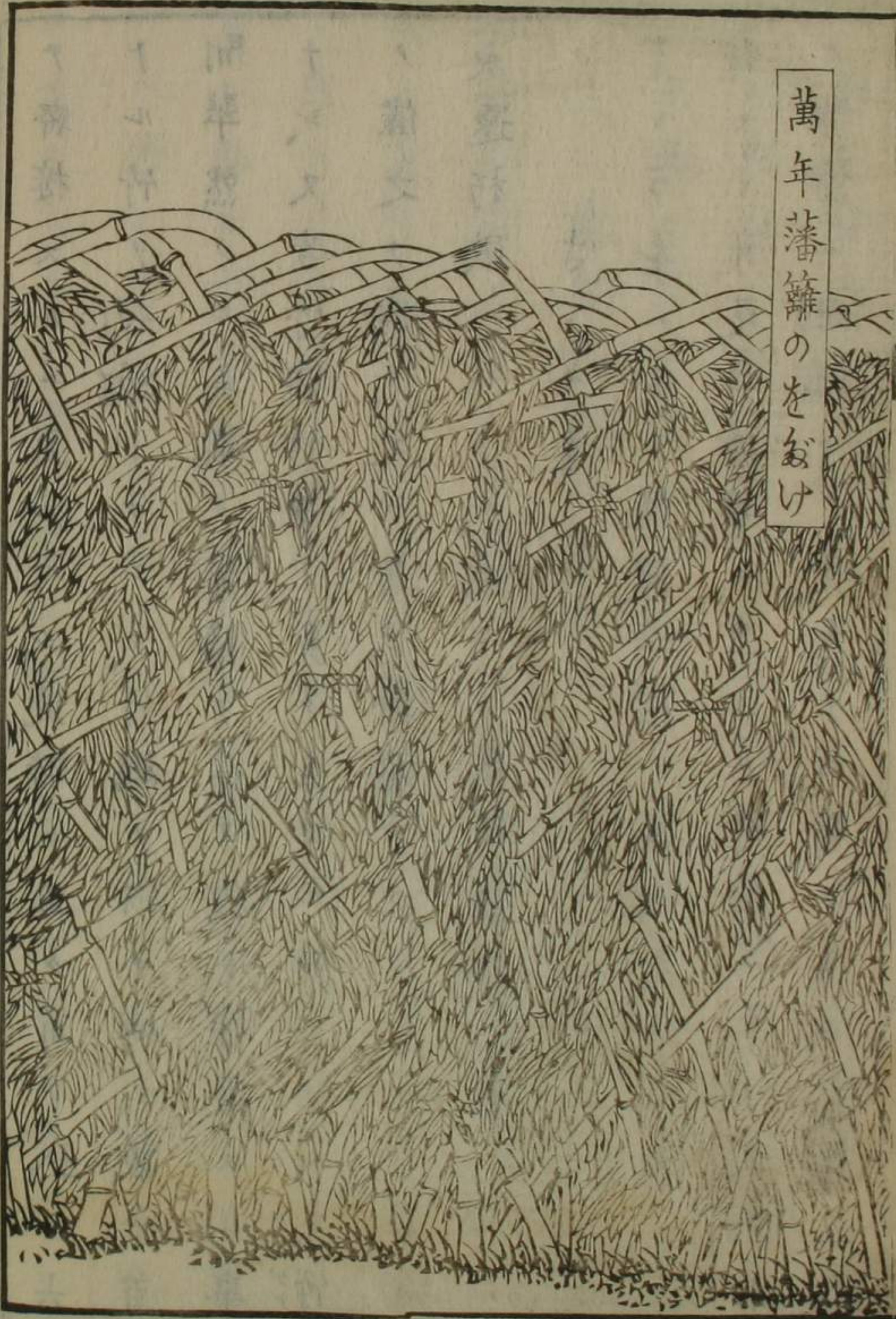
テ密接スルニ至ルベシ、此時ニ正ク蒔リ込ミ大ナル竹ヲ押縁トナシテ、竹繩ヲ以テ縛シ、數十百間翠然タル美觀ノ藩籬ヲ造リ得テ、損敗スル事ナシ、又苦竹淡竹等ノ多ク生ズル所トラバ生竹ノ儘之ヲ撓メ、之ヲ折テ、結籬トナストキハ是亦永遠朽敗ノ患ナシ、是レヲ萬年藩籬ト稱ス

さ、うを

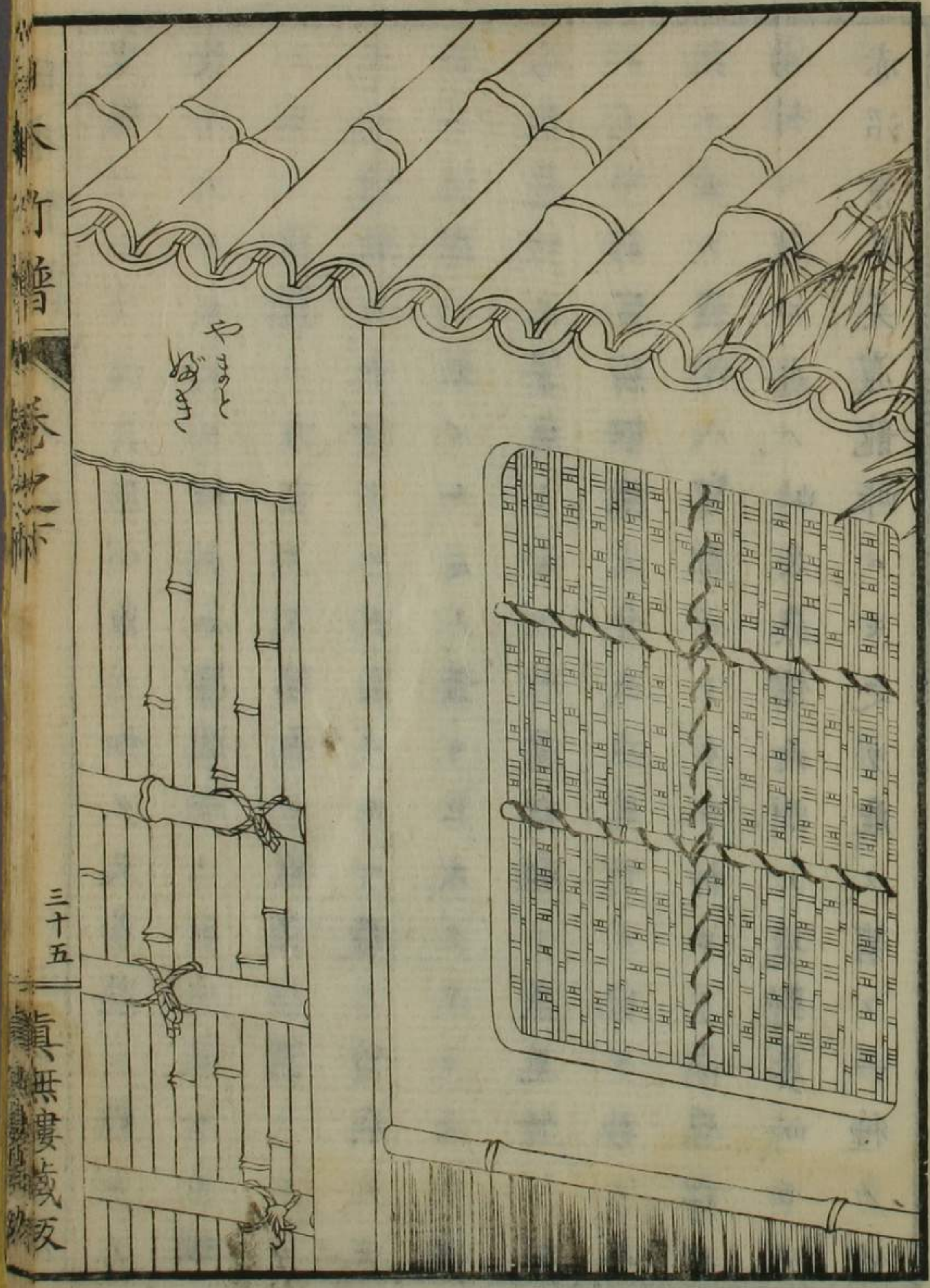
ぎ、うをハ、多ク飛彈、信濃ノ溪間、及ビ山嶺ノ小竹ス、竹及ビ箬等ニ生ズル竹筍ノ名ナリ、細小ノ竹節ニ母竹ヨリ長大ナル筍ヲ生ジ、長約五六



万年藩籬のをあげ



万年藩籬のをあげ
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十



木竹譜

卷之二

三十五

真無婁或友



萬年藩籬のりなげ

日本竹言

卷之二

真無婁或友

寸、周一二寸許、其形小魚ノ如ク、又麥穂ノ熟シテ長大ナルモノニ似テ、每籜圓小ニシテ頗ル魚鱗ノ如シ、篠魚ノ方言アリ、篠魚ハ飛彈信濃ニ止マラズ、諸國山中時トシテ生ズル一種ノ竹病ナリ、但シ飛彈ニ生ズルモノ最モ巨大ナリト云フ、漢名魚尾竹、又穿魚ト云フ、竹譜詳録ニ魚尾竹ノ説アリ、今錦窠翁伊藤圭介氏魚尾竹ノ記ヲ抄ス、其記ニ云フ、飛州八賀郡ハタホコ村ヨリ高原郡平湯村へ越ル處ノ峠又飛信兩州ノ境野麥峠、日光赤沼原又美濃龍峠ニモ之ヲ産ス、筍ノ一種ノ竹

病ニシテ、其狀笋形ヲナシ節ヨリ生ズ頗ル魚形ニ似タルヲ以テ土人ハ魚ニ化スト謬惑シ奇ナリト稱セリ、即チ李息齊ノ竹譜ニ、魚尾竹西蜀功州西十里許、白鶴觀、古者仙人四月老翁得道之所、其山生細竹、葉上每一梢末有細籜、左右相對一二寸許、二籜亦對生、如魚尾狀、視之宛如細魚、人傳老翁釣魚、其下折竹貫之、遂成此種、又名穿魚ト詳録セシモノ是レナリ、此説七羊翁ノ百品考ニモ引用セリト云爾、嘗テ聞ク飛彈國吉城郡上寶村平湯組字ヒダヲリ谷ヨリ年々八月笹魚ヲ採收ス



さ、うを

ふけやど



ル六七十个之ヲ文房ノ裝飾物ニ販賣スル價金三四圓ヲ得ルト云フ

ふけなど

ふけほどハ即竹苓ナリ、本草會物品目録ニ云フ、其籜全ク竹筍ニシテ茶褐色、内ニ茯苓ヲ胎ス和漢三才圖會云、本綱雷丸今出房州金州生山谷及土中竹之苓也、無有苗蔓葉大小如栗狀如猪令而圓皮黑肉白甚堅實其赤者有毒殺人トアルハ竹ホドニ異ナルカ如シ、今博物館ニ藏スルモノハ本草會物品目録ニ圖スルモノト同シ

ふけみそ

ふけみそハ漢名天竹黄、又竹黄、又竹膏、又天竺黄ト稱ス、本綱竹黄諸竹内所生如黄土着竹成片者得之、竹枯レテ筒中ノ露水濕熱ニ因テ凝結シテ麴粉ノ如キモノヲ生ズルヲ天竹黄ト名ク、天竹黄ノ事ハ田中芳男氏ノ説精細ナレバ左ニ鈔出ス

タケミノ天竹黄 Tabasheer 英華字典 ウエラストル

字書ニ曰ク Tabasheer 百爾西亞語ニシテ素ト Tabas

白ト云フ語ヨリ轉シ來ルナリ、此物竹ノ節間

ニ生スル凝結物ニシテ、大抵純粹ナル玻石ヨリ成リ、東印度ニ於テハ之ヲ藥劑ニ供シテ價甚ダ貴ク、膽液性ノ嘔吐血痢痔疾其他相類スル症ニ稱用ス、林氏本草竹ノ條中ニ曰ク Tabashir ハ百爾西亜語ニシテ結石シタル乳汁ノ義ナリ、昔ヨリ有名ノ品ニシテ、印度人大ニ賞用シ、西洋人モ亦タ之ヲ珍トセリ、是レ竹ノ含有スル乳汁様液ノ乾キテ堅クナリタル者ニシテ、新竹ニ供フル甘味ノ液ト同性ナリ、老竹ニ至リテハ此液色味ヲ變ジ凝結シテ堅塊トナリ、恰モ浮石ノ如ク一種

異味アリテ差收斂スルヲ大抵燒キタル象牙ノ如シ、印度之ヲ竹糖ト名ク、亞刺伯及百爾西亜ノ人藥用トシテ大ニ之ヲ貴ビ、其位、金銀ト均シキニ至ル
ヘルトフーヘル植物字彙竹ノ條ニ曰ク、若シ竹幹堅密ニ過グルトキハ、節中自然ニ密ノ如キ液ヲ滴出シ、太陽ノ温度ニ因リ次第ニ凝結ス、是レ古來傳フル所 Tabashir ナル可シ、佛大字書、竹ノ條ニ曰ク、竹ノ節間ハ列バシイルト名クル物ノ通常ノ居所ナリ、此物玻石質ヲ成シテ、僅少ノ灰

石質ト有機性ノ物質ヲ雜ヘリ、是昔時大ニ珍奇トセシ所ノモノナリ

右ノ數説ニ因レバ、老竹ノ節間ニ瀦溜セシ甘液次第ニ凝結シテ砂石狀ヲナス者ニシテ、其性玻璃質ナルト見ユ、玻璃質ハ竹幹ノ外面其他、木賊麥稗等ノ如キ堅キ質ヲ造成スル爲ニ具フル質ナレバ、素ヨリ竹中ニ存スルテ怪シムニ足ラザルナリ、

本邦ニテハ九州地ニ於テ竹中ニ液アルモノ多ク、特ニ薩州ニテハ竹中ヨリ砂石狀ノ物ヲ出ス

トアリト云ヘリ、東京ニテハ野州、常州ヨリ切テ出セシ竹ヲ七八月迄貯ヘ置テ割ルニ水或ハ砂ノ如キ者ヲ出ストマ、アリ、其砂様ノモノハ、灰黄色ニシテ、漸ク蜆殻ニ一杯モアルノミ、

和漢三才圖會云、天竹黄ハ、即諸竹三四月斫者經月、破裂之内、有天竹黄益濕氣熾於内、暑熱蒸於外、自生蛙然乎、未見虫形、黄粉輕虛者也、藥肆取筱竹外節所、有黄粉充、黄粉不可用

竹瀝

竹瀝ハ、往年漢法醫ノ藥用ニ供シタルモノナレ

ドモ、今ハ所用勘シ、然レドモ竹ノ多キ所及ビ竹ヲ焙リテ他ノ使用ニ供スル者ニ至テハ、之ヲ採收シテ貯ヘ露^ラ天ニ用ル木板及ビ鐵^{テツキ}葉等ニ塗^{マシ}抹セバ多少腐朽ヲ防クベシ、和漢三才圖會ニ竹瀝ヲ取ル法ヲ載ス、竹ヲ以テ二尺ノ長ニ作り、劈^キ開^キシテ磚^カ兩^ニ片^イヲ以テ對^カ立^タシテ竹ヲ其上ニ架^タシ、火ヲ以テ炙^スリ、其瀝ヲ出シ、盤^ハヲ以テ之ヲ承ケテ採ル

竹蓐^{スノタマゴ}

竹蓐ハス^スマ^マメ^メノ^ノタ^タマ^マゴ^ゴ 筑前「ス^スマ^マメ^メノ^ノイ^イ」 同上「ツ^ツハ

メ^メノ^ノマ^マ、^{筑後}ス^スバ^バメ^メノ^ノモ^モナ^ナ 備前「タ^タケ^ケノ^ノク^クサ^サビ^ビ」 和三^三才^才大^大和^和本^本草^草云、竹蓐ハ竹ノ液^{ジュ}カタマリ色黄ニナリタルナリ、竹ニ付テ生ズ、小兒炙リ食ス、甘ク味香バシ、時珍曰ク狀如木耳紅色、本草拾遺竹肉ト云フ、苦竹肉大毒アリ、小兒食シテ死スル事アリ、本草綱目啓蒙云皮^カ竹^ク、羞^カ明^メ竹^ク等ノ根上二三尺ノ間ニ附生ス、木耳ノ形ノ如クニシテ小サク、多ク重^カリ生ズ、黄色ナリ、乾ケバ黄白色トナル、又淡竹苦竹等切テ土上ニアル者、或ハ籬ニ作ルモノニ兩後銀杏^{イナブナ}葉ノ形ノ如キ白菌ヲ生ズ、甚薄フシ



竹筴

ス、メノタマコ

サ
ル



サ
ル

テ小サク五六分許アリ、之ヲタケナバト云ス、竹
林上ニ生ズルモノハ二三寸ノ大サナルモアリ、
又箇譜ニ「タケノイシヅ」ト稱スルモノアリ、竹
ヲ抱テ生ズ、硬木耳ノ如クニシテ、柔軟白卷紫卷
アリト云フ

竹筴

苦竹ノ繁茂ナル林中ニ生ズ、狀シメガニ似テ、莖
細長、蓋褐色ニシテ粘液アリ、採リ來リテ水ニ浸
シ置キ、之ヲ燙ニシテ食フニ味淡泊ニシテ佳ナ
リ、雨後竹根ニ生ス蓋白色ノ者ハ小毒アリ食フ

ベカラズ

偽筴

食物知新ニ波以茂ハ和名俗盤旋
スル者ヲ波布ト云フ、波以茂惠ノ
下略ナリ、生芽スル者ヲ名
ケテ萌ト云フノ義ナリト

大和本草ニ、釋贊寧ノ筴譜ヲ引テ云フ、竹根傍出
似_ル筴者、コレ四時共ニアリ食スベシ、是レハ鞭筴
即俗ニ「ヨコダケ」ト稱シ四時就_レ中秋季竹林中及
ビ林外ニ挺出スルモノナリ、伊藤圭介翁ノ話説
ニ曰ク、竹アルノ田舎ニ至テハ何ニモ響應ハナ
ケレドモ、筴ハ何時ニテモアルト云フ所アリ、其
筴ハ皆鞭筴ニシテ、偽筴ノ字ハ筴譜ニ出デタル

モノナラシ、バイモト云フ者別ニアリ云々、予舊
 邸苦竹林アリ、鞭筍ハ屢食セシトアリ、鞭筍モ太
 キモノハ圍三四寸ノモノアリ、肉實シテ食フ所
 多ク、軟ニシテ味亦苦竹筍ニ異ナラズ、且他ニ筍
 ナキ時ニ食フヲ以テ主客皆珍トス、然レドモ竹
 林ヲ蕃殖セシムルニハ、鞭筍地表ニ挺出スルモ
 ノハ必ず土ヲ掘リ深ク之ヲ埋メテ翌年ノ出筍
 ヲ助クベシ

仙人杖

筍ノ長シテ竿ヲ成サントスルニ當リ、立テ死ス

ルモノヲ仙人杖ト名ク、竿ノ色黒キト漆ノ如ク
 シテ、皺アルトシボ竹ノ如シ、是レモ漢醫小兒ノ
 吐乳其他ニ用ヒタレドモ、今ハ用ユルトナシ、但
 シ仙人杖モ其枯死スルノ時ニ從テ、用ユベキモ
 ノアリ、用ユベカラザルモノアリ、殆ド堅質ヲ成
 シテ枯レタルモノハ純黒ニシテ皺アリ、杖等ニ
 用ヒテ雅ナレドモ、嫩筍ニシテ枯レタルモノハ、
 大抵節ヨリ折レテ用ヲ爲サズ、但シ苦竹淡竹林
 一時トシテ是レアルヲ見ル、他竹林ニモアルベ
 シト雖モ未タ之ヲ見ズ

さびむけ

さび竹ハ、扁額ノ縁、及ビ床^{トガ}框^子其他^{ハナ}花^イ活^ケ灰吹等ニ
 至ル迄使用シテ尤モ雅ナルモノナリ、多クハ苦
 竹淡竹ノ立枯ニ生ズルモノナレドモ、建仁寺垣
 ニ、數百本割リテ用ヒタル中ニ一二本サビヲ生
 ズルコトアリ、又植籬ノ押^{オシ}縁^ヅニ用ヒタル竹ニ、サビ
 ヲ生ジ、皮面點々胡麻粒ヲ正列シタル如キ最良
 ノサビヲ生ズルコトアリ、竹ノ老壯及ビ伐リ時ト、
 雨露風日ノ感觸ニ因テ生ズルモノナリ、サビ竹
 ノ良好ナルモノハ價亦貴シ、僻^ヒ郷^ノニ至テハ最良

ノサビ竹モ、叢中ニ放置シ或ハ燃材ト爲スコト多
 シ、惜ムベシ、人功ヲ以テサビ竹ヲ造ルニハ竹ノ
 三年ヲ經タルヲ伐採リ之ヲ地上ニ立テ又ハ之
 ヲ横ニシテ、毎朝之レニ水ヲ灌ヤテ日ニ曝シ置
 クベシ凡五六ヶ月ヲ經レバ能クサビヲ生スル
 モノナリ、

護基竹ノ説

或問護基竹トハ奈何ナル竹ナリヤ、曰ク此事本
 草會釋ニ出ズ、此書何人ノ著ナルヲ知ラス、護基
 竹ハ苦竹、淡竹及ビ合^メ朶^ダ竹^ケ類ヲ家ノ四邊ニ栽ユ

ベキヲ云フトアリ、別ニ名稱ニアラズ、竹類ヲ邸宅ニ栽ヘ、盜ヲ防ギ、風ヲ防ギ、火ヲ防ギ、日ヲ防ギ、水ヲ防ギ、家宅ヲ保護スル謂ナラシ、基ハ基趾ニシテ宅地ノヲナリ、

竹ノ枯死ヲ防クノ説

或問園中ノ竹、花ヲ開キ實ヲ結ビ、將サニ枯ントス、秘傳花鏡ニ治法アリ、竹初メテ花クノ時、一二ノ大竿ヲ截リ、地上三尺ヲ殘シ、節ヲ通過シ、犬糞ヲ填實スレバ、花自ラ止ミ、竹亦死セズト云フ、此治法ヲ施シ果シテ効アルベキヤ、

曰、竹ノ枯死セントスルハ、老幹古竹ヲ伐採セズシテ地中ノ鞭根紮縛シテ旁引スル能ハザルカ、或ハ伐採過度ニシテ園中枯瘦シ、肥養分ノ竭ル等ニ因ル、糞ヲ以テ填實スルヨリ、寧ロ、竹園ヲ開鑿シテ舊根ヲ一掃シ、地中ヲ軟膨ニシ、肥料ヲ充分ニ施シ、更ニ竹ヲ植ユベシ、必再造ノ功アラシ、竹ノ拵挿ノ説

或問竹ハ拵挿シテ能活スト云フ、果シテ拵挿スベキモノナルヤ、曰ク竹ハ擡シテ活スベシ、武田信玄ノ拵シタル人面竹蕃殖シ武田竹ト名ルモ

ノアリ、親鸞上人ノ杖ヲ拵シ、西行法師ノ杖ヲ拵
 シテ活シタルト云フ話説ハ、聞キタルノミニテ
 見タルヲナカリシガ、近時目撃セシハ、慶應初年、
 將軍家茂公、上洛ノ途次、東海道原驛有名ノ花戸
 植松與右衛門ノ園ニ息シ、手ヲ松樹一本ヲ栽ユ、
 主人之ヲ悦ビ、人畜ノ之レニ觸レシヲ慮リ、新竹
 ヲ伐來リテ短籬ヲ結ビタリ、此短籬ノ一竿兩枝
 ヲ生ジ、綠翠新竿ノ如シ、主人之ヲ奇トシ、又其外
 ニ短籬ヲ結ビ之ヲ保護セリ、此技ヲ生ジタルハ
 苦竹ナリ、苦竹尚活ス、鳳尾竹、寒竹、方竹等ハ如キ

鬚根將サニ生ゼントスル兆候ヲ節上ニ現ハシ
 疝形ヲナス種類アリ、是等ノ竹ハ、皆拵シテ活ス
 ベシ、然レドモ、竹ハ皆根抵チモトニ於テ鬚根ヲ發セン
 トスル瘤狀アル一節ヲ留メテ拵スヲ可トス、草
 木錦葉集ニ其法ヲ載ス、竹ノ拵挿ハ、五月陰曆ノ中
 夏至ノ頃、地ヲ五寸程堀リ、下ヘ赤土ヲ三四寸程
 入レ、上一寸程黒土、又ハ川砂、又ハ書院土ノ赤砂
 ヲ赤土ニ交ゼタルハ別ニテ宜シ、拵穂ハ管ニ切
 リ、二節付ケテヨシ、見計常ノ如ク必シ伏セテ、捲
 ス時ハ日中ヨロシ、鳳凰竹、寒竹、四方竹等ハ別ニ

テ能ク付ク、苦竹江南竹ハ未ダ捲シテ試サズ、一度拵挿ニシタル竹ハ、芽細ク出ルナリ、細キ品ハ四五月陰曆頃、何レモ鉢へ拵シテ宜シ、土ノ加減ハ地拵ニ做フベシ、但シ鬚根ヲ生ゼンメントスル節上へ、牛肉ヲ薄ク切り、巻テ之ヲ捲セバ尚可ナリ又草木錦葉集ニ云フ竹ノ拵挿ノミナラス小笹ノ類、何レモ日中ニ於テスルヲ宜シトス、移植ハ五月ノ末、六月中陰曆筍ノ秋冬出ルモノハ、移植四月末五月初ヨシ、捲條ノ養ニハ、土ノ上へ馬糞ヲ細ニ置テ宜シ、地植ニテ大竹ニ成サント欲

スルニハ左ノ如クスベシ

竹ヲ肥大ナラシムル法

草木錦葉集云、竹地植ニテ太キ大竹ニ成ニハ、最初穴ノ如クナル地所低キ黒土ノ處へ植テ宜シ、年々掃溜ノ類ヲ入ルレバ、地所モ自然ト高クナリ、竹モ太ク出來ルナリ、母竹母竹ハイカニモ細キ新竹宜シ、太キ古竹ニテハ筍生ゼズ、上根上根多クカラミタラバ地堅クナル故ニ、上根ハ掘リ捨テ、ヨシ、厩肥掃溜杯多ク入レバ、上根ハムレテ腐ルユヘ、掘ル勞ナク別ニテ宜シ、上根ヨリハ太キ竹

ハ生ゼズ、赤土場所ニテハ筍ヒコラ發ク苦味アリ、黒土
ハ上ナリ、自然ニ生ズル款ウキ冬ノ如キモ赤土場ノ
モノハ苦シト云々

竹ノ肥料

第一 牛馬羊犬猫鼠其他獸類ノ死體及ビ骨皮、
瓜等埋メテ宜シ、靴革及ビ鞆類ハ數日
間水ニ浸シ置キ、臭氣アル水ト共ニ根傍
へ埋メテ可ナリ、又鳥賊イカ及ビ鳥賊ノ甲腸
類ヲ埋メテ可ナリ、盆栽ニハ牛肉、死鼠等
ヲ桶又ハ鉢ニ入レ、水ヲ和シ腐爛セシメ、

能ク腐熟シテ臭氣ナキ程ニ腐熟シテ如
汚泥ニナルニ至テ後、之ニ適宜ニ雨水ヲ
和シテ數回ニ施セバ最モ可ナリ、

第二

草木ノ落葉、及ビ落葉化土、厩肥、堆肥、竹葉、
薯糖、米麥ノ糠、酒糟、雪花菜、人糞、牛馬糞、油

滓但シ胡麻ノ油粕、アハセゴロ、
ハ用ユベカラス合糞、

第三

米泔水、浴水、河泥、田泥、川砂、石灰、古キ介殼
類、床下土、

但シ土地ヲ見計ヒテ施スベシ

竹ノ禁忌類ハ左ノ如シ

海草類、殊、黑菜、馬藻、食鹽、蕎麥、莖、蕎麥、殼、胡麻、生薑、皂莢、葉實、共海魚、但、鹽氣、了、ル、モ、人、

日本竹譜卷之下終 大尾 廣 下 終



明治十八年十一月四日版權免許
全 十九年二月 出版

著述兼
出版人

東京府士族

片山直人

南豊島郡内藤宿
北裏町九十九番地

石川治兵衛

東京日本橋區馬喰町
二丁目番地

丸家善七

全通三丁目十四番地

穴山篤太郎

全京橋區南傳馬町
二丁目十三番地

發兌
書肆

